増補古言梯標注　全

ホ 2
628

門 加 2 128 號

楫取魚彦輯

山田常助増補

増補訂正

古言梯標註 全

東京書屋 文淵堂藏

[stamp]

いにしへはいつらくをだまの幸はふ國つたぶまあ
ゐなかる國と。是はしも擧をめれば皇神乃
さきまへましてことあらはさざるをあきこそいふ也。
然其の中に常の言しも神の代のまゝよみあるを
人の代の末まで傳へなばちゞのものも
ことの葉よろづのたらひもさくひてあやしくあく
なるはこの言靈の幸なるも有なるものあれば末の
代の人といへどもふるまことばをよくしつゝものの

そもそもふみのくさ〴〵多くなれる時は目は文殺すなといひし
万葉のむかしをたどるあしハゆゝしけどあめつちの道
みちもひらけたりけるそもしろてそのおやちふ
もかをとめづめさだあいうえをの五十連の音よ
なすみこれでゑの天地のなりけりしまかりきなるを
時だまのむらさふ皇神のことたま口きよくあらはれ
ましめしをあめのまとひべき人のさかひはて
のちの者きゝしさとおくあらはれるをみせるべ五十連

めて忌をいよゝへのふるきむかしの人さきふぶてぬきさふ
ことの通ひぞまなこ忌のさくものはふえみもいぞべし
いゐえ忌をおのらひそのこ忌あゆらえのこと
ちるかのちからなるもたがふをあらざりきさるをば
めくるらけまほくの人のからそのしらにかくされて
代のちたなる文字ちふものをこのうつらきはあれど
ちらうしろいあめにてこどを伝ふるかなもの同音ましと
のこしろうしをかくてゆ後の世の人はこのめのかやまうて

その言なるをさへそのまゝおほつかなげなりし人のこゝろ泥
まよひきつるを、やゝしるしわけたり。かゝるみちをふるき
こと葉はおほくなれるものなれ。かゝるくつがへしをはかりしも
とめもとめてかくいふにもあらず。されは楫取の
魚彦ハ、かの歳のうしはつきて、おのれが万伎とか
ふとつ代のふみをまなびて、さらにいふにしへのことを
よむこゝろまなびしくは、その言をたのことをさかしくさ
なりましてこのふみをとぢむへくしてのくしをまへり。

いさをとはいさほしといふハいさををいふ

たぐふるをぬきしのこれるを挙さけるとし月を
録て書つめたるをさらにもとひなせしたか
きらく遂ることまきしるしたりけるぞまことにすし
つたふるいさほしさハちかくまらも世の中にいつくしへまた
まなぶる人ことのふみとをもはらともすみたまひ
たちけていはしくの言の不限や八百隈までをも。
思ひよせざらんやあきらめざらめや。

明和二のとし四月

藤原の宇万伎かく

附ていふ　　　魚彦

今所補凡百五十言

○言の上中下にいはゆる音をれなどのたがひ、又言の下に云波を和のごとく、比を伊為の如く、倍を延恵の如く、保を乎於の如く唱へ、或ハ治自頭豆などのまちがひまで、古の書にハ書すること遠ふることなく正しく定まれるを、に近き時和字正濫抄とてさる言どもを書へあつめ、あやまりをそのんやせるさまに見せて、古の書らむろくあれ對へ記せしより後の世人の私に思ひなりていへるものゝ類にあらじなるべきをも多く、さるにはあらず思ひはかりしもおほき事、且いかに考ふるとハざるもの多かるをいふのりて、その方人に向へば、彼抄ハいはゆるよろづの案なるものを或人ハひそく世に弘むるなりとていへるをみるに、その言の出る所ゆゑよしなどを記せしハ十が三つ四つあり、此度考られる言ハまさしく千八百八十三言、巻故よしを挙たり、又古書に假字の見えざるも彼是通はして知らるゝハそのよしを記しつきても猶ほ古に考ふるよしを得ざる一二つハもらせしもあり、さるハあれどもかの故よしをまるおしはかりたがへるもあらんにや、且むろくもをひきれどもまれなるもみるべし、これらハ後に向も得考もしつべしまでてあるなるにちがふ世ハ私の意に引きんずるを恐るゝなり

○和名抄には夾纈をかうけち、薔薇をさうびなど乃字音どもを出せれど、皇朝の言にあらざるばよらず、又郡の名、郷の名のたぐひに字音のまじゆるもあれども、これらは皇朝の言なるを、音のむきも合ふ字を借りて書るものにいはゞ郡に英多和名安加多、郷に育波和名以久波の如し、故に是らハ假字なとりつ、

濱按梵語のまゝを訓に用ひしハ尼ナて 斑子 猿猴 唐音にて唱ふるハ 杏仁キヤウニン 石灰シツクヒ 燕麦 字音のまゝを訓とせしハ 菊 桔梗 繪 期 役 以外識 蟬 文 などを皆字音とし 春云くさにも木丹の音とせんるゟんをず

春云もふぜうハ半挿の音とくのえかうハ薫衣香くさ衣香ハエいびやうちう

○訓の如く聞えて字音なるありたとへば

○えに 縁　○らに 蘭　○せみ 蟬　○せち 切

○あふむ 鸚鵡 あふむなるをうく坐　○くゑ 法華経をほくゑきやうといふ　○ぐゑんじ 源氏

○へんぐゑ 変化

古今集物名に

○しをに 紫苑 和名同　○ばせをバ 芭蕉 和名同　○さうび 薔薇

○きちかう 桔梗　○けにごし 牽牛子　○くたに 木丹　○はくわかう 百和香

和名抄に

○のせう 陵苕　○りうごう 林檎　○もけ 木瓜

○もくらに 木蘭　○むくれにしのき 木欒子　○さくなむさ 石楠草

○とうしみ 燈心　○はにさう 匝　○かうけち 夾纈　○ずさ 従者

物語に

○こかんざくり 王家　○くのえかう 裛衣香　○さうじみ 正身　○すざく 朱雀　○せうそこ 消息

○例をもて知らるゝハ省けるもあり、譬ば物の名に大何小何などいへる、大ハ於保、小ハ袁などのあ

これらにならふべし

春云字鏡と訓たるもといへる人あれど
それハいろくなることも
春き論ハ別にあれ
の是非さだめなきのみぞ

春云竟宴哥の假字
あやまりおほかれバ
とらずすべて此を
あまたくさのくく

是ハおゆづりつ

古言の證とすべきものゝ中に、新撰字鏡てふ書ハ、古き世の書目録に字鏡といへるはあれども其字鏡ハいと古へ出来しが、それに次て新撰を作れるなるべし、されど寛平四年に撰さると記して実に古言多く、假字も古めかしも、是を吾友村田春海てふ人京に遊べる時ゆくりなく得たりとていとよろこびてもたらしきてもとめて見るに疑ひなし、言の知らるゝも多なる、たとへば蝶ハ音のまゝにのみよびて訓ハ知られざりしを、加波比良古と訓たりしといへる假字の出るところ知られざりしに、可咲を阿奈乎加志とよめるたぐひ

〇諸国の風土記ハ傳らず、今たゞ出雲風土記と豊後風土記のふたつのみ遺れり、其外のも此記の傳はる時に書たるものに引るをバ用ひ、八古もしらぬ好子の例なりとなむ ずどう

〇神楽、催馬楽、風俗哥の古本あるてハ賀茂大人と村田春郷の京に行る時得られし、皆真字もて書傳へて、假字古へにたがふこと多なれバとらず

〇日本紀竟宴哥なども是も真字もて書て古き書とハ見ゆるものゝなかなるたがひしき事も交れる八後の人のうつし書しるし誤しるされども據とするべきものハ少なりつ

〇證とするものハ、ふたつハ古事記日本紀に均くあるハ古事記を挙て紀同と書、字鏡和名に同じきハ字鏡を挙て和同とす、古きをさきとすることも他もしかり

奈良の朝より上代のかなに用る字が八異にて字鏡和名などの八月やすきなき字のみとあしらぬも寛平延喜承平の頃までも假字の実ハたがふことなし

常にいふ妻比すの假字を用ひきても八其妻ハ壽地ハ地の草にて皆濁音く清音の假字を用る八誤猶此くらい一言の条にくハしく清濁音訓などのことも

〇古事記日本紀等の假字ハ專ら字音を用ひて訓を交へず、（神字のみ訓を用ゐしことあり、又濁音の訓をとりしもあり）にハ濁音の字を用ゐ（今清てよむにも古へ濁しもあり又古へ両音に用し多し）ることあるを字鏡和名などにハ正しく古へのごとくなら書たりしを中つ世の下になりて、木止戸江女井などの訓をもしも用ゐしハ、その頃よりくだりて漸くに正しからぬなりしものとされど字を用ることハ上つ代には異なれど、假字の意ハたがふことなきが多けれバ、此訓の假字多し、これハ字音、訓、語義、訓正、訓、戲書などにて理異なり、又常に見えたる、等の假字を用るも訓を用るもありて今ハ字鏡、和名等を引るはなし、訓の假字を除て字音のみに改つきしたるがあしくハ本書にかへりて見よ

〇一言の條に出せる、清音、濁音、清濁二音、半濁音、二字一言等ハ古事記、日本紀、万葉集等に用たる假字にて、且假字ハ四声にかかはらずして用るぞ古例なる

〇草木鳥獣などの物としても用なきしがまゝくにて、吾朝の古例なればなり

〇すべて言のもとハ五十の音よりなれるなれど五十の音のみを先とへても、されど、たゞ、喉音、舌音、牙音、歯音、唇音ら言のおこりなる始のみいひて、五十音の万づの言に用る道を委しくいひ明せるなし、天竺の言を書し物にもみえず、さらバ世に傳らぬなるべし、かゝると荷田大人（東丸）其稲荷神社に

春云荷田の家に五十音
の古傳ありと云ハれけら
まことゝ思らくは
僻言ならん賀茂翁
の語意も未定乃
書にて從ひがたき
こと多し

古事記に宇比地
途上声須比智
途去声など註
せり是宇須の
二字異なるのみ
にて他ハ皆同
じ假字と音
八字によらざる
なるべし此
類なを在

いさゝかの古傳のあるをもて、天下の古書をひろくわたり、此言を深く考得て、吾加茂縣主に傳ふさ
て後に縣主ぞみづから考深く思ひはかりを加へなどして語意てふ書を記せり、それに五言乃
竪音ハもはらいふまでもなく、横韻に體用令助平言等、世に傳らぬくさ〴〵の道あることを
あらはし、清音濁音の通ひ本濁假濁などいふ事、またくさ〴〵の傳ありといへども、こゝに
擧て知らすべきにもあらねバ是にいはず
○或人吾友藤原宇万伎に問、假字づかひてふものはいにしへも上つ代にハあるべきことにあらん、
文字渡りて後音韻四聲などより又ハ悉曇などによりてことわりを定むるわざならし、いづれも
文字のうへのさだなれバ音國のことわりにて云ざるべしといふ、宇万伎答吾縣主のいへらく、むかし
天竺にも本字てふものハなくして、たゞ言のみありて、後に日月鳥獸千万の物の形を書て
その音のまゝにしるしけるを、その形に音をつけておもふハいかで後の世のならはしぞかくて
皇朝の言の事といへども、いにしへなりしの假字を用ひざるハ他の國の音韻四聲はも
悉曇によりてならはしくるものにしてもはら言の意より出つればば
その言をはなちて音韻即口の内よりうつりいづるまゝをもおしはかりても、億計王弘計
計王など申すハ御兄弟ともにおはしまして、老少も同じとおもへば、億計弘計交へ
用ゐあらバいづれも御兄いづれも御弟ともいつべくこそあれ、上つ代よりのひ
出る言の上を下へいひかけることハ冠辭に多くの見ゆれハ、ねなれの書をつくるまでのことなりし

與云此標
註の説い
かゞなるや
まち唱る
ことも誤
ハある
べくらす
狩谷部
のえこえ

まづむ見も
げびぶべぼハ通
りと古例と皆
ばかりなどのむ
りけぶりとげ
なり皆まぐらひ
皆是と武無と
ぶかむのも
よみ麻馬を
ばまもも
よむ如くなの
びらのみのぶ
なのむあびも
あらず古書
言を心得ぬ人
かぶりにおて
うむらとよむと
ならなひすて
誤く

古書とくらべ
いへども私を立
んとする人ハ
ひがごと

あり、是らは文字をつくらぬさきの事、吾國の言の多かるをえよ、かみ風の伊勢といひ、はるが
すみ井上のくにをいひみなぎらふ浪をみのをはやみいひ、それらがなかにふれわつの子がなれいむらけし
言に、いふをれなれとよく用ひものなるべし、たゞひ後に理などまうけて、字を書てふも
こゝろしらるる、且東國の男女のなりのいひ出せし國風を多く万葉集に載しをもい
みえ然をれの言のけぢめもなふまでいひなしつ、文字をまなびて知べし、古の東人ハ文字の
音韻を知などの事ハおもふもなかりけめど、女ハ今なふよみまなばゞ古をと思ひいるべし、かくの
如く上つ代の言ハおのづから正しかりけることを、あやしきまでおぼえらるゝ、其正しき言のまゝを
うつし傳へし假字なれバ古き書うつしてたゞへきなし、假字のさだめる八即言のさだ
つなり、古書ハ古事記よりはじめて延喜承平のころに至るまでの書どもくさ〴〵あれど後
の書ハやゝよしよこなはれたるにあらねバ、よゝ後の世にたがひし假字の
事ども人あるも、皇朝の古書をよみも得ずして、あるハ文字の反四聲によりあるハ悉曇
によりつきて云ハみな古てふものをいぶかりて私のさだめなれバ、論ふまでもなし、たゞ古き書にそむく
なるによりて、五十連の音をもとにしてはかりをむろふたがひまいでなくてはかりけむ、此
事心得がてにする人ハこゝろみに私をやめて、古書を見バ、終にさとるべし、問まちくる
悉曇ハいかで後に此國にうつりしものなればいかならむ
○次ハ五十音にまさぐりひ、條ハ一言より四言五言などをまちぬ

原本古言梯ハ衣をの所属を誤れる今てはとあらためむ

わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
六十一	六十	五十七	五十二	四十六	四十二	三十五	廿九	二十	一丁
ゐ	り	い	み	ひ	に	ち	し	き	い
六十二	同	既出	五十五	四十八	四十三	三十七	三十一	廿五	四
う	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
既出	同	五十八	五十五	五十	四十四	三十八	三十三	廿六	十
ゑ	れ	え	め	へ	ね	て	せ	け	え
六十三	六十一	既出	同	同	四十五	四十	三十四	廿七	十三
を	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お
六十四	同	五十九	五十六	五十一	同	同	同	廿八	十四

古 古事記　紀 日本紀
続紀 續日本紀　続後紀 續日本後紀
詔 續紀宣命　式 延喜式
祝 式祝詞　万 万葉集
新万 新撰万葉集　字 新撰字鏡
和 和名鈔　灵 靈異記

此外の書名ハ全く挙

原本ニハ一言の条ニいおえをちとの部の外訓の假字をのせずされど万葉なと意得ん便ともあるべきハ今悉く挙之但一日をかを訓道路極などぞ。訓るらいハ上るを沖縦しる言のごとく今打まかせて言の假字ニ用ひ書くハまうりてべこの類などは多く用捨して書づる

増補古言梯標註

○安部

一言

あ　安。阿。婀。鞅 音也 古事記 日本紀 万葉集 假字 下同

吾。我。足。 霊 畔 霊異記 訓也

二言

あは　穀也 古事記 阿波 日本紀 同 粟

あは　あハくしきこ 古 阿波 万葉集 同 淡

あは　國之 阿波

又 安房 和名抄 阿八

あハ　飛騨郷之 和 安波 阿拜

あわ　水上のあさし 古 阿和 紀 同 沫 泡

あ　……

ゐ　和 阿為 漆草 字鏡 藍

あぢ　魚之 字 阿地 和 同 鯵

あぢ　古 阿治 紀 同 味

あを　色之 古 阿袁 紀 万 同 青

あを　和 阿乎 若狭郷之 阿桑

あひ あへ あふ あへる　逢之又相合會遇 古 阿比。阿布 紀 万 同

あへ　饗之 和 筑前郷 饗 と久波倍とあり久波

阿倍と約たるなり

あえ　あやかるこ 紀 阿叡 肖

あぢ　鬼類之 万 阿遲村 運歩色葉集 安持 鶴 運歩色葉

万廿 箏 安路自

布保通之とよくしでも、今書くるハ、あふひとかくべし、下の葵も同じ

万七丁 阿自呂人

三言

あるじ 古本風俗哥 阿流之 主

あはび 貝之 紀 蚵波 蘇 万 和 同 鰒 石決明 又鮑

あはき

木之 古 阿波岐 紀 和 同 檍

あふち 木之 万 安布知 字 和 同 棟

あづさ 木之 古 阿豆佐 紀 万 同 梓

あはぶ

粟生之 古 紀 阿波布 粟田

あづき 豆之 紀 阿豆伎 和 同 小豆

あふひ 草之 字 阿保比 古今集物名 逢日と添 和 阿布比

あど

布保通之 葵

あしみ 草之 和 阿之爲 蓋草

あをど 青礪之 和 阿乎度 礛礪

ろ 魚を取搆く 万 阿白 網代

あふご 物を荷ふ木之 古今集 逢期に添 字 阿保古 和 阿布古 布保通 朸

あしか 竹之 字 [illegible]

あ

阿自加 和 同 簀

あをに 常陸風土記 阿乎尓 青土

あをみ 字 伊太久 阿乎美奴 [illegible]艶

ふぎ 和 阿布岐 扇

あふぎ あふぐ 天ふ向之 万 安布藝 仰

あふり 馬具之 字 和 阿不利 障泥

あゆひ 足纏之 古 紀 万 阿由比 脚帶

あごえ 字 阿古衣 和 同 鞊 雞雉距有岐也 距

あへぎ

春云 病ふあへぐ 濆云 字 阿波久 嗎労

今云 贖 靈異記 阿加女也

あへの語意ハ皆同じ 敢 堪の字ふあぐまぬれ

雄略紀 駭惋 イキドホリアキレ

あきたをあいたと云ハ音便之也 部ふやあぎつをやあいづと云も同じ

病之 和 阿倍岐 喘息

あはれ 歎辞之 古 紀 阿波礼 阿憐 阿怜

あらひ あらふ あらへる 万 安良布 洗

あらは あらはし 紀 阿羅播武 万 阿良波之 顕露

あがふ 万 安賀布 字 同 贖

あへ

て 万 安倍而 敢

あへぬ 万 堪へと安倍年 不堪

あひだ 紀 阿比 娜 万 同 間

あわ

て あわつ 同 字 阿和豆 あわたゞしと云も 惶急 周章

あたふ あたへ あたす 神代紀 阿多播 雄略紀 與 奴 又 夜而賑之云

子 同 與

あづく あづかる 也 當納 預

あたひ 當易之 兄 加の約多 價

あはす

あはせ 古本神樂哥 安波世 合

あづま 東國と云 古 万 阿豆麻 吾妻

あふみ 國之 古 阿布美 紀 同 近

江 もと 淡海

あふみ 伯耆郡之 和 安不美 會見

あはぢ 國之 和 阿波知 淡路

あひづ

陸奥郡 万 和 安比豆 會津

あいた 出羽郡之 和 阿伊太 秋田

あいか 出雲郡之 和 安伊加 秋鹿

春云由と以と通すること瑕しきるべく

春云平安と訓まるゝと訓むることいふなき故ふ君ならぐし契沖が説ふ物語ふあるあゝえうと云詞とこの郷名と同し假字あふんとよるハひがことくあえくハあやふげのつぶまりたるふて衣の假字く

春云あひねひハ相追ふの恵慶集二手日二葉よりあひねひもてんくみナしふれくふ松ろつる哉とぞのふれと

あいた 美作郡之 和 安伊多 英多

あゆち 尾張郡之 紀 吾湯市 万 年魚市と有 和 阿伊知とあるのハ平言之 愛智

あをみ 三河郡之 和 阿乎美 碧海

あかふ 信濃郷之 和 安加布 赤生

あをか 淡路郷之 和 阿乎加

平安

四言

あわゆき 古 阿和由岐 万 和 同 沫雪

あひむこ 姉妹の夫之 和 阿比無古 婭

あひよめ 兄弟の妻之 和 阿比与米 妯娌

あひおい 相老之相 阿ノ部ニ 老ハ於ノ部ニ在 相生の字とするハ誤

あきしひ 清盲之 字 和 阿支之比 矇

あしなへ なえぐ 足病之 字 足奈倍 和 同 又那閉久 跛 蹇

あをむし 虫之 和 阿乎無之 螟蛉

あはがら 魚之 和 阿波我良 梳齒魚

あまづら 甘葛之 字 甘 豆良 和 同 千歳蘽

あぢさゐ 草之 万 字 安治佐為 和 安豆佐為 紫陽花

あさがほ 万 槿を訓 字 桔梗を訓 和 牽牛花を訓 皆阿佐加保

あさぢふ 浅茅生之 古 阿佐遅波良 紀 同 此ふハ音便濁の例くよりて半濁ふ字の如く唱

あをのり 海草之 和 阿乎乃利 陟

あしびハがと清てびと濁るべし

古語拾遺 織布 古語阿良多倍

春云あなゝひハ今云足代の事也竹取物語古本今昔物語り之の
演云続紀宣命ふ政乎相阿奈那比
麻柱之義蓋本于此
田中道广吕太麻柱

あしがひ 葦芽之 古 阿斯訶備

あやまち 及 阿夜万知氐 誤

鰺

あはしほ 食塩之 和 阿和之保 白鹽

あぢはひ あぢはふ あぢはへる 字 阿地波比 味

あへもの 醤属之 字 阿反 毛乃 和 同 韲

あらたへ 麁栲之栲の訓 多ノ部にあり

あづまや 和 阿豆万夜 註 官殿皆四阿 四阿

あむづち 射垜具之 常云あづち 和 阿無豆知 射垜

あをひえ 和 阿乎比衣 竹刀

あきなひ あきなふ あきなへる 交易之 字 阿支奈布 商 估

あなゝひ 造作具 和 阿奈々比 麻柱

あらそひ あらそふ あらそへる 争之 古 不争と阿良蘇波受 和 同

あやふし 字 阿也不志 危

あつかひ あつかふ 傷熱之 字 紀 阿豆加布 暍 字

あからへ 明之 続紀 阿加良閉

○厩柱の誤なるべし

神代紀 闕怜 靈運 當遷 アツレヽタマフ 顯宗紀 羸弱 アツシレ 雄略紀 遺病弥留 ヤマヒアツシレ など見え源氏物語桐壺巻にあつしくと有なども同語也

与云 将門記 戆 阿知支奈久去々

あるひは 或 一云アルヒハ一説 也

あまさへ 剰 餘剰之

あゆかは 鮎河 相摸郡之 和 阿由加波 愛

甲

あさひな 朝夷 安房郡又駿河遠江郷 和 阿左比奈

あさふづ 朝津 越前郷之 和 阿佐布豆

五言 六言 七言

あまのがは 銀漢 天河之河の訓 加都まあり

あもゑむ

ばゞ 赤卒 蜻蛉之小而赤也 和 阿加恵無波 今やあきつと云ゑむばの訛る

あまがへる 蛙黽 虫之 和 阿末加閑流

あしまつひ 蝩 虫之 字 足シ 万豆比

あへづくり 臡 和 阿閉豆久利 註 切肉合糅也

あな

にゑや 妍哉 紀 阿那而恵夜

あをふよし 冠辞 古 阿表途余志 紀 同

あぢきな

し 無端 味気無之 竟宴哥 阿知支奈之

あをひとくさ 蒼生 人民之 古 青人草 紀 阿烏比刀久佐 和 同

あしはらがに 蟛蜞 甲虫之 和 葦原蟹

あけびかづら 通草 蔓 和 阿介比加都良

拾遺物名 犬の去ぬ いひのきたり

あはせのころも あはせのきぬ 裌 又袷 無裏衣 字合 乃已曰 毛 和 阿波世乃岐奴

あまのよさづら 天吉葛 紀 阿摩能与佐圖羅

○以部

一言 い 以。伊。巳。異。移。怡。易。夷。印。意 寐。寝。眠。宿。膽。射。五。

訓之 五十 二字一言 紀 万 以

馬聲 同上 万 以

二言 いも 妹 古 紀 伊毛 或は妻或は儷て恋女 女弟

いも 芋 暑預 和 夜万都以毛 芋 和 以閉都以毛

いみ 鵄鵲 鳥 和 伊微

いぬ 犬 獣之 和 以奴 又 恵奴

いか 烏賊 介虫之 字 伊 加 和 同

いね 稲 古 伊那賀良 万 籾を稲を借る

六帖三鯉よど川のそこにすむねどこひとりくたまるでいをとるそ稀ちらかざりける

春云古書に水際の石あるでも石の名を伊曽といへり

万九丁卅六伊刀糸

夢を古ハいめといへりゆめと云ハ後也

いね いぬ 寐之紀伊祢万同又伊奴〇古事涅子万爲祢なとあるハ異なり
いを 字伊 乎 魚
いら 小草生刺 字和伊良 苛
いしいは 石之古伊斯紀同 又古紀万伊波
いは 大石之古紀 万伊波 磐又岩
いそ 水際の石之古 万伊緒字同 磯
い
け 古伊氣 紀和同 池
いひ 通路穴之 和以比 樋
いへ 人の居処之古 伊幣紀万同 家宅
いほ 木を插たるゝ 古伊
同上 五伊 保字和同 廬 菴
いほ 五百 古伊 本紀万同
いち 物を賣買処之 古伊知和同 市
いた
多紀同 皈
いひ 食之紀伊比字 炊を伊比加しくと久 飯
いと 字和伊刀 糸
いた 辞万伊等 痛又痕 大甚
い
ろ 万字伊呂 色
いき 古伊岐又 於岐 息
いえ いゆ 痛止也 愈
いめ 万伊米 竟宴哥同 夢
いで 発語之紀 異提 猷乞又乞
いざ 古伊昝紀同 率又去來
いつ 万以都語 伊都之何 何
時
いづ 嚴之古伊 都紀同 稜威
いづいで 古伊豆 語伊天 出
いづ 國之 伊豆
い

拾遺物名に入るは熬とぞいへし
典云赤染集三ある寺のあかりげまうくうおそらしげまうく えしをほのをそこをかゝらしとこの形しがるほのおほひろうとぞ 是ハ入るは鑄と派ち

万一伊奈婆 万十五伊加武 万二十伊久 紀伊制 伊勢

りいる 古紀伊理 万同又伊流 入
いりいる 火をて物を熬之字伊留和海鼠ゝ条云加良熬字云伊里古云 熬
いる 和鋳伊加太 鋳鐵形也 鑄
いま 古伊麻 紀同 今
いむ 和阿波郷忌部を伊無倍有 忌
いひいふ 古伊布紀 万同又伊比 云又言 謂
いく 古伊久 紀同 幾
いくいき 和筑後郡生葉を以久波乃有 生
いくゆく 万伊 加伊 往又行
いや
紀万伊夜 いよ同古 彌
いよ 國和 伊与 伊豫
いせ 國和 以世 伊勢
いが 國和 以加 伊賀
三言
いろは 廾紀伊呂 波和同 家母
いろせ いろね 兄又古伊呂勢又 伊呂泥和同 家兄
い
ろど 弟之古 伊呂杼 家弟
いろこ 父の兄弟の子 世和以刀古 從父兄弟
いまし
汝之万伊 麻思字同 伱
いのち 古伊能知 紀万同 命
いみな 忌名之字 伊弥名 諱
いごひ
いこふ いこへる 憩を退之是を轉じて休する 古伊基能布 字伊己不 息
いびき 臥息之字 伊比支 鼾
いくち 唇

勇雄下ニ注
与志泉異記ニ作 酒息利とも

和以久知 免缺
いひぼ いをゑ
字鏡云小兒肫伊比保 和 以比保又以乎米 註手足違忽生如豆魔強於肉也云々 いひぼハ常云いぼ いをゑハ常云いをのゑ

肫 又疣
いつる 飛鳥を射 和 以都留 弋
いたち 小獸 和 以多知 鼬鼠
いむき

小蟹之 字 伊牟支 蝻
いかひ 貝之 和 伊加比 貽貝
いるか 大魚 字 伊留加 和 同 鯆䱐
い

いをし 小魚 字 伊和志 和 同 鰯
いぐひ 魚名之 出雲風土記 伊具比
いさり 捕魚之 万 伊射里 漁
い

いけす 和 以介須 註池中編竹籠養魚 簎
いちび 草之 和 以知比 注今編蘭為行縢 莔
いちひ 木之 古 伊知比 紀 万 同 赤檮

又櫟
いたひ 木之 字 伊太比 和 同 折傷木 又木蓮子
いぬゑ 草之 和 以奴衣 香薷

いちご いちびこ 草之 紀 蓬虆 訓伊致寐姑 字 覆盆 又蓋 訓同 和 覆盆子 訓以知古 いちびこハもゆべる
覆盆子
いきす 海菜之

和 以支須 海髪
いさを 竟宴哥 勇雄
いらへ 良之 允 伊 息
いくり

作酒を業として其利を得て沽計とするを云也さて イラヱハいらふ同しく其利ゐ安まるよし

万一 五十日太

いちひハ忌より出

海底石 古 伊久理 紀 万 同
いさご 細石 字 伊佐古 和 同 砂
いはほ 高大石 万 伊波保 字 和 同 巖
いは

や 石壘之 和 伊波夜 嵓
いほり 菴居之 万 和 伊保里 廬 又菴
いがき 神籬之 万 伊垣 齋籬
い

いづみ 出水の略 泉
いづみ 國名 和 以都美 和泉
いらか 屋棟之 和 伊良加 甍
いか

り 駐舟具之 和 伊加利 碇
いかだ 和 以加太 筏 小舟桴
いかだ 和 伊加太 註鍛鐵形也 鎔

いびら 鞍馬具之 和 伊俾良 杏葉
いばゆ いばえ 馬鳴之 和 以波由 いばふ鳴ハ云べし 嘶
いく

さ 戰之 和 艨艟を以久佐乃不称戰船也云々 軍
いどむ 挑之 古 伊杼美 挑
いかる 字 伊加留 怒 又恚 很
い

いはひ いはふ いはへる 紀 伊波比 万 祝 同 斎 又祝
いのる 万 以乃利 伊乃里 竟宴哥 同 字 祈 又禱
い

かし 紀 伊箇之 祝 同 嚴 又重 茂
いやし 万 伊也之 字 賤 同 賤 又卑 鄙
いまそ 古 伊麻須 紀 万 同 在

與云いなびいなみいなぶいなむなどの訛ひハヒフヘホの濁音をバ多くてミムメモにかよりそも本音便にころもくくふ唱る

いさふ　字伊吒左不
いつゝ　數之仏足石哥伊都々和五數と以都々乃太奈豆毛乃　五
いやま　万伊夜末

字同　暇
いやひ　いやふ　いやぶる　万伊等布　仏足石哥同　肤
いづれ　万伊豆礼　何
いかに

いかゞ　紀以柯你　万同　如何
いづく　いづこ　いづち　古伊豆久　万同又伊都　知古本神樂哥伊都古　何處　いづこ何路
い

たる　古伊多流　万同　至
いづる　万伊豆流　紀同　出
いたしき　古痛手之以多豆　紀同　万伊多

久字　和同　痛
いまだ　古伊麻陀　紀万同　未
いぬる　寐
いぬる　万以奴留　往去

いふ
万伊余与　彌
いざち　哀声之古伊佐知　哭
いさむ　万伊佐美　字竟寧哥同　勇
い

さむ　字伊佐牟　諫
いそぐ　いそがく　万已藝使又伊藝波久　急
いなむ　いなふ　不受之

詔伊奈備　辭
いろこ　頭城之和加之良乃寄　加又伊呂古常いろこと云　雲脂
いさる　字伊左留　笔

ものなきハ假字もわろりぬける多く又ぶと書るをもむと唱るも多し附言の標註にかぶりし書てかむともよむと云ぶぐいよべく混くといへるハいぶかし既に衰部にをるあべしと云ふ取紀ハしと唱といへるもけり例あるべしのそや

春云農と乃の假字に用るハ通音之後のことなれど訛にハあらじ

いなば　國之和以奈八　因幡
いはみ　國之和以波美　石見
いづも　國之和以

豆毛　出雲
いでは　國之和以天波　出羽
いなさ　遠江郡之和伊奈佐　神武紀哥伊那瑳ハ大和也　引

佐
いなび　いなみ　播磨郡之和伊奈美　日和　印南
いひぼ　播磨郡之和伊比保　揖保

いさは　甲斐郷之和伊佐波　石禾
いそふ　丹波郷之和伊曽布　石生
いなほ　武蔵郷之和伊奈保

稻直
いそゐ　信濃郷之和伊曽爲　竿井
いくれ　越後郷之和以久礼　勇禮
いひ

のぬ　安藝郷之和伊比乃　入農　農古ハ奴の假字之乃ニ用るハ後の訛
いかの　讃岐郷之和伊加乃　生野
いむみ

筑前郷之和伊無美　生見
いくは　淡路郷之和以久波　育波

四言
いかづち　仏足石哥伊加豆知　和同　雷
いなづま　和伊奈豆万　又五言ニ出　電

字 伊奈久

いざなき いざなみ 神号之古伊邪那岐 伊邪那美紀同
いもうと 女子後生之和伊毛宇登 妹
いかるが 鳥之紀伊柯屢俄万字和同 斑鳩
いかるが 丹波郡和伊加留加 何鹿
いへばと 鳥字伊倍波登和同 鴿 又鵓
いひとよ 鳥之和以比登与 鵂鶹
いらむし 虫之字伊良虫 [illegible]
いひあり 虫之和伊比阿里 赤蟻
いなゝく 馬鳴之和以奈ゝ久 嘶
いけにへ 祭の具和伊計仁倍 犠牲 又餼
いけどり 万生ケ取 虜
いろくづ 魚甲之和伊呂古 以呂久都又 鱗
いしもち 魚之和伊之毛知 鮸
いしぶし 魚之和伊師布之 鮔
いしがめ 山水亀之和伊之加米 秦龜
いたどり 草之字伊太登利和同 虎杖
いぬたで 草之和伊奴多天 葒草
いへにれ 草之和以倍仁礼 鬼葵
いきくさ 草和伊岐久佐 景天
いをすき 草之和伊乎須岐 商陸
いもがら いもし 芋莖之和以毛之加良又以毛之 蔽
いはぐみ いはごけ 草之和伊波久美又伊波古介 巻柏
いたゞき 頭上之万伊多太伎 字和同 頂 又戴
いたゞき 山頂之和以太ゝ伎 巓
いはくえ 万伊波久叡 岩崩
いしずゑ 柱下石之和以之須恵 又以之都義 礎
いしめち 和以之乃知 注出 倫中国英賀郡 鍾乳
いちぐら 市舎之和伊知久良 肆
いたつき 和以太都岐 注 今之戯射箭也 平題箭
いたづき 労之拾遺集 上の平題箭と添
いりもの 肉膾之和以利毛乃 腊
いそしき いさをし 紀伊蘇志臣 続紀 文徳実録 同い さをしも佐保の約音みて同 功勲

春云類聚国史伊佐乎之久日本紀竟宴哥伊佐袁志久又裒装鳴とのこともあり後世いさをしといへく體語とするハ誤也ハもとはしと辞にて伊佐乎とりふぞ本語なる

旨云竟宴哥ニ裒装鳴とあるハ勲功の意ハ非ず勇雄の義也是本語ニて勲功の事にも勇雄ノ義ハ共い約てイソシイソシクあからいふさればイサヲとハ功字の心とイサヲシク云べうべイサヲシク

いにしへ 万伊爾之敝 古
いやちこ 紀以耶知挙 灼然
いれなむし 字鏡と豆久利以刀 奈牟収訓
いたはし いたはる いたはし 万伊多波斯 字鏡伊等保旨弥 労
いたづら 空之万伊多豆良 徒

イツシクイツシはなと云へし続日本紀に勤臣をイソシオミといへることもあるイサヲと云ハ勇雄の心にてイサヲシクハ勇雄らしくとの○宇津保物語俊蔭巻に云いたぶき天につきてさうぎ山もゆるがしなけいさをしきこんやさきあしとなしてわらふに是勇雄らしき心と出しいそぎ勲功しきんとおもふとせん

春云万十一廿三言借見又一書哥に伊布可之美と有気振より出しと云こと心得べし

与云後頼口傳廿五段に……

いつはる 字伊豆波留 偽又倭

いぶせし いぶせき 万移夫勢美 鬱悒

い

いぶかる いぶかし 不審之此語も作気振より出つ許の意をあるハ非なり

いざなひ いざなふ いざなへる 万伊射奈比 韶字同 誘

いざよひ いざよふ いざよへる 古伊佐用布 猶豫

いさゝか 字木長良 伊与々加 森々

い

いそがし いそがハし いそぐの例 勤も同意 閙

いへども 紀易倍邇毛 韶同 雖

いはむ

や 云の例 況

いさかひ いさかふ いさかへる 祀伊須呂許比ゆり呂ゆ良通 須良の約佐と加ゆ許又な 諍

いなゝ

なし 字伊登奈志 倊

いさゝか 万伊佐左可尓 聊

いさゝめ 万伊佐佐米 卒

爾

いきほひ 息競 勢

いぶすき 薩摩郡 和以夫須岐 揖宿

いひし

ろ 遠江郷 和伊比之呂 邑代

いへとじ 東伊戸之土之 又家刀自 家室

春云家女くとあ娵ハまちうらくれ

五言 六言 七言

いらつひめ いらつめ 家女くつハ助語 紀異羅苑比咩 紀伊良良貴 郎姫 又郎女

いやいとこ 和伊夜伊刀古 従父兄弟の子 再従兄弟

いきすだま 和伊岐須太万 窮

鬼

いとけなし いたいけ あるあり 幼

いぼむしり 字伊 虫之

比保牟志利 和以保無之利 蟷螂

いなごまろ 虫之 和以奈古万呂 蚱蜢

いりこまる 将門記伊利古万留 偪仄

いさなとり 冠辞 紀異舎儺等利 万同 勇魚取

いすくはし 冠辞古伊須久波斯

いかにせむ 将門記伊加尓世牟 何為

いたやがひ 和伊太夜加比 文蛤

いはつゝじ 末之 和以波豆々之 又毛 字茵芋 割同 羊躑躅

いらゝぐさ 草之 和伊良々久佐 羊桃

いへついも 和以閉都以毛 芋

いはぐすり 草之 和以

増補古言梯標注

波久須利又須久奈比古乃久須祢　石斛

いはのかへ（いはくみ）　草之和以波乃加波又以波久美注其葉如皮　石

韋

いたちぐさ（いたちはせ）　草之和以多知久佐又以太知波勢　連翹

いなびか

りいなづるび（いなつま）　電光之和伊奈比加利又伊奈豆流比又伊奈豆万　電

いきぼほる（いきぼだしも　いきぼろ）　紀異 於逆

倍呂之茂万伊伎騰保流字同又伊支土呂志　憤

いちじろく　万伊知之路久　灼然

いちはや

し　疏一連比　嚴捷

いしはじき　和以之波之岐置石其上發機以投敵也注建大木　旝

いらたけ

く　古伊良那祁久万同字同和哥と伊良本訓那祁久八辞字書苛煩也急也

いそのかみ　大和郷之紀伊須能箇涉和伊曽乃加美　石上

いすゞがは　伊勢ニ在　五十鈴川　五十以部鈴八寸部川八加部ニ有

いつきしま　厳嚢　記嚴

島楠顧又伊都岐嶋　嚴嶋

いろこおもて　医心方以呂古於毛天　飼面　面皮上有沢如米粒者也

いつ

与云貫之自筆古今集いれおほせとり

典云いなおほせどりとふといふは鳥の名にあらずといへり委くは記しつ

きのみや　和以豆岐乃美夜　齋宮

いくはどころ　射藝具之和以久波上古埒又阿紙豆知　射垜

いもしうとめ　妻の姉妹之和伊毛之宇刀免　姨

いぬのたまひ　天吐之和以奴乃太末比　犬吐

いぬかひぼ

し　星之和以奴加比保之又比古保之　牽牛

いたちは

じかみ　木之和以多知波之加美又保曽支　蔓椒

いなおほせどり　鳥之和以奈於保世度里不保通　稲負鳥

いなつきこまろ　虫之和以奈都岐古万呂豆夫古万呂　螽

斯虫

○宇部

一言

う　于、宇、汙、紆、烏、有、雲、禹、羽　音

得、卯、兎　訓

春云馬と牟麻梅と武米といふこと万葉ありいは後の轉ることも必訛りしもいへし天暦の比ハ志らぬより

万十五 宇々流

春云諾と轉じくむべといふを既にまし誤りハあらば 靈異記 郁子の字を用ひたり

二言

うま 紀 宇麻 万 同 これら八皆宇を牟に誤之 此外に牟麻と 馬

うを 古 宇袁 紀 万 同 以表やとも云ハ後の轉之 此外に 魚

うじ 虫之 古 宇 土 宇 同 蛆

うめ 木之 万 烏米 和 同 万 字本 牟梅などいへる八宇を牟に誤 梅

うり 黄帥之 和 宇利 古本催馬楽 同 瓜

うゑ うゑう 古 宇恵 紀 万 同 古本風俗哥 宇和流 草木を植しうゆるとハ云へうす 殖

うゑう 飢に飢之 神武紀 怒 稚古紀 伊比介恵

互にいへる八宇を異せるに 字鏡 を伊比介宇 飢 又餓

うず 宇受 紀 同 髻華

水廻之 万 宇頭志ほ 渦

うづ 紀 珍 訓 于圖

山城郡之 和 宇知 宇治

うぢ 氏之 古 山城郡宇治に借て書て 和 讃岐郷氏部と宇治倍にいへて 姓 又氏

うひ 万 宇比又 古今物名 初

うへ 捕魚竹器 和 宇倍 筌

うへ うはし 古 宇閇 紀 同又 刻播

うべ うへ 古紀 宇倍 又 紀 宇毎 諾

上

三言

うなゐ 童の髪を云之 字 和 宇奈為 髫髪

うはを 和 宇波牟 又伊 万乃牟宇刀 後夫

う

神功紀曰時人號其產所曰宇瀰也古事記爲生成國土注訓生字牟

字鏡 恨 莫奴反伊支多弥字 又 愛保兮又伊礼不

うきへとふき体言あるべし

うなじ 頸後 字 宇奈自 和 同 項

うづら 鳥之 字 宇豆良 和 同 鶉

うばら うまら 万 宇ヵ良 和 常陸郡茨城と宇

うま

波良 岐 荊 又茨

うしほ 古 海塩 紀 于之袁 和 同 潮

うちは 和 宇知波 團扇

志 古 宇麻良 紀 于麻師 又于魔伊禰 于磨佐開 あその うまし八味と本中く万えるにも関わりて心よろしおとえ 可美 又旨 可怜

うけひ うけふ うけへ 誓約之祈 呪咀之 古

宇気比 紀 謌 同

うたへ 訴之上 和 刑部省と宇多倍多々須都加佐 訴

うたひ うたふ うたへる 歌声 古 宇多比 紀 同 歌

うかび うかぶ うかべる 字 宇加夫 浮

うつほ 和 半天河と木乃宇豆保乃美豆 空

う

うまる うむ 万笛の約無、免笛も同 産 生

うばひ うばふ うばへる 強て取之 万 有婆比 字 宇波不 奪

うれ

うれひ うれへ うれふ 三代実録 憂比礼 憂 又悒 愁

うすひ 上野郡 万 宇須比 和 同 碓氷

うはし 甲斐郷 和 宇波土

表門

与云灵部の標注に
いへる如く書しくまつ
まけハ利と得るを
とゞくる語く
与云灵異記ニ姝于尚八之
ともや

万十五 宇思奈波受

古語拾遺 姓 宇豆麻佐

四言

うはなり 古宇波那理 紀 和同 後妻

うぐひす 鳥之 万 于具比須 古今物名 和同 鶯

う

まかひ 馬飼之 紀 于麻柯比 典馬 和名 人

うまぐは 農具之 和 宇麻久波 馬杷

うまび

ゆ 草之 和 宇万比由 馬莧

うすらひ 万 宇須良婢 薄氷

うはがひ 衣の前之 字 宇波加

比 衽

うまはす 灵 于万波志又云母寸 利

うやまひ うやまふ うやまへる 不尽石哥 宇夜麻比弖 詔 祁礼比 恭

又敬

うるはし 古 宇流波斯 紀 万 同 美

うるほひ うるほふ うるほへる 字 宇留保須 潤 又 漚

うしなひ うしなふ うしなへる 三代実録 失比 失

うづなひ のの 諾 万 詔 宇豆奈比 祝 宇豆乃比

うつろ

ひ うつろふ うつろへる 万 宇都呂比 古本神楽哥 同 移

うかゞひ うかゞふ うかゞへる 古 宇迦々波久 紀 于介 伽毘豆 字 宇加々不 窺 又 伺

うちはへ 打延之 新万 打蠅

うづまさ 氏又山城地名 紀 秦剋禹 豆麻佐又禹豆母利麻佐

うるひ

続後紀 凝布 字 同

濱云うづくまろの證
たしるもしバ宇豆麻
佐宇豆の幣帛ハ證
とすしかくかくんれの
世ハ古事記ふあるさが
ひて宇須受麻里と
かうまくれおゝ外ふ
も證あるべし
春云宇須受麻里ハ
誤字ふあらバ須と
豆と通ずるをす古
言ふ例多し

づ 上総郷 和 宇留比豆 濕津

うりふの 日向郷 和 宇利布乃 瓜生野

うたがひ

うたがふ うたがへる 比不倍通 疑

うらなひ うらなふ うらなへる 一合 也 卜 占

うしはく 須之 古 宇志播吉 万 牛以又牛掃

五言

至十一言

うまふゝき 野菜 和 宇末不々岐 牛蒡

うまきたし 華ヽ 和 宇末支太之

鱧腸草

うはおそひ 字 衣上副也 宇波於曽比 褊

うへのきぬ 和 宇倍乃岐奴 袿著

襴之袷 表衣也 袍

うつはもの 和 尾器と須恵 宇都波毛乃 器

うづくまる 宇豆ハ 紀 禹豆麻佐

硯 宇豆乃幣帛本文宇豆ふ同 古今 求ふ宇須受麻里收ゐるハ誤字也 蹲

うばらぐつ 戦馬具 和 宇 波良具都和 蒺藜

銜

うしのひたひ 華ヽ 石龍芮 字 牛乃比太比 和 同 字 又 太豆乃比介 石龍芮 字 牛乃比太比 和 布加豆美 字 同

うひ

たひのうま 和 宇比太非能宇麻 戴星馬

うぐひすのいひ祢 木之 和 宇久比須乃

以比称又久佐　支乃析　恒山

うたまひのつかさ　官名之 和 宇多末比乃豆加佐　雅楽寮

おきくべき本ありうくきくハ後

うたへたゞすつかさ　官名 和 宇多倍多々須都加佐又伊勢郷刑部ニハ於佐加倍ともあり　刑部省

まらふをやらふるかな　紀 于覧羅你烏野羅甫屡柯倭　美飲喫哉

○延部

仏足石哥和礼波衣美須呂云々

一言

え　衣。延。要。曳。依。叡。哀。埃。愛。音

柯。得。吉。善。訓

可愛　紀 二字一言

兄。江。荏。衣 和 榎。枝。柄。

上のえひハ今のあろもの小て次のえひおゝ

二言

えひ　字 衣比注 編平魚　鯕

えひ　和 衣比注 似鱣而青長鼻骨者也　鱏

えひ　和 衣比注 俗用海老二字　鰕

えだ　手足之 和 衣太　肢

えだ　欄之 古 延陀 紀 万 同　枝　又條　柯　幹

えぞ　古言ニえぞと紀愛彌詩の帰語あり　蝦夷

ち　近江郡愛智 和 衣知　遠江郷依智 和 同上

えの　薩摩郡之 和 延乃　頴娃

えた　加賀郷之 和 衣多　英太

三言

えをぢ　父の兄之 字 衣乎地　阿伯

えみし　えびす　紀 愛彌詩〇えびすハ衣比須又美之備志乃須通　蝦夷

又　夷

えびら　和 衣比良註養蠶器也　蠶簿

えふり　農具之 和 延布利註把之無歯者也　朳

字衣也三又左牟也弥老瘧也

えやみハ疫の字音あるべきれど猶おぼつかなく挙

つ　屋具之 紀 哀都利 和 同　蘆雚 和 棧

えやみ　和 衣夜美又和良波夜美註二日一発之病也　瘧

えやみ　和 衣夜美又登岐乃介註民皆病也〇此えやみのえハ疫の字音あるべけれどいぶかし　疫

えらび　えらみ　えらぶ　えらぶる　えらむ　えらまる　源順哥ニ甲ニ…もえらひ

小入て此読入より　撰　又 万 擇とも訓〇平言ニえらむともとり是れのづから延と同音ニて恵にハあらぬ證之

えくに　伊勢郷之 和 衣久介　兄國

四言

えゑむし　字 衣米虫　蝒

えびすね　草之 和 阿夜米太無又衣比須祢　地楡

えびすめ 海菜之和比呂米又衣比須米 昆布

えかばら 和衣賀波良註小兒腹病也 瘖

えしも

の 常陸風土記荒賊俗阿良夫流要斯毋乃 賊 与云、物語書にえせごと、えせもの、えせうきなどいふえせは此えしにおなじ

五言

えやみぐさ 草之和衣夜美久佐又惠加奈 龍膽

えびすぐさ えびすぐすなり

えびかづら 蘡薁草之和 葛と衣比加豆良 蒲萄と衣比加豆良乃美

草之字衣比須久佐又山佐加知 衣比須久須里又奴美久須里 芍薬 又字

衣比須久佐 和決明同訓

○於部

二言 お

於、淤、意、憶、憶、飫、隠、乙、應、磤

父の兄弟ををぢといひ母をも小父小毋かて假字別なし

鬼字ハ万をきと申もの此二訓あり

典云万にふとと点せるの鬼字ハ醜を思ひ悦せるか又ハ西と悦せるものありて鬼をまとこの訓あまりハあるべからずさる略字古書多いとなし

万九於保世流奈弖之故とを今生義それほしおほすなどいふ時ハほの假字を書くべしとおもふ

二言

おや 紀於夜 記万同 親

おも 紀於暮 万同 母

おも 万於毛 面

おぢ 字於地 大父の略 祖

おば 字和於波 ○大母の略 祖母

おれ 古意礼 紀同○人と賤みて云言と後世みづからをもおれと云ふはおのれの意なり

おみ 古淤美 紀同○臣下之又加婆祢

おみ 紀於弥○人名又加婆祢 使主

おい おゆ 古淤伊 紀於喩○おいおゆ ハ誤 又万意余○児の人なり

おに 和於介 訛隠音之訛也云此説はし古書にはなしと云 鬼 又和入神

おぶ 和於不 貝之字 白貝

おし 猟具之和於之 鼠弩

おし 忍之大和郡忍海と紀於尸農弥 又飫斯能毘稜栖ハ同郡の川

おし おす 紀飫斯 万同 押 推

おび 紀於寐 万和同 帯

おき 海川に云 古淤伎 紀万同 瀛 又澳、沖と訓

おき 万於吉 又いき 息

おき 古淤岐 紀万同

おき おく 古淤伎 万意久 興

おき おく 紀於己 万同 起

おき おく 國之和 於岐 隠岐

おき おく 除置之万 於伎豆 置

おひ おふ 古淤斐 万同又於布 生

おひ おふ 古淤波 又不負と 淤波受 万於比又於布 負

と書たるなり

少女など後世乙女と書るハ誤也遠の假字也

おそと獺少とするハ誤も假字もなくり

仏足石哥於豆恐也

春云老と於与と云ことハあやまり於与奈と云ハおきなのよハ伊媼を手の約まへ悪続紀伊与美奈之子音那としお又古き物語ふ老女のことを称無奈といへることも和名抄の無を與の誤

圓 媼 於于那

おひ 万於比 追

おほ 古意富紀 万和同 大

おと 万於登 新万同 音

おと 紀乙を於の假字ふ

用又山城郡乙訓 和於刀久迩 乙

おる 古淤呂須波多呂須の納流之 和文と之頭於利ル訓又於聞 織

おちおつ 古淤知 万同又於都

流 落 又墮

おぢおづ 字於豆 忙怕

おそ 万於曾乃風流士又於曾也此君又心鈍手向爲在 痴鈍

おふ 上総郷之 和於布 飫富

おう 出雲郡之 和於宇 意宇

三言

おかみ 風雨を司る神之 古淤加美 紀万同 龗

おほぢ 父の父之 和於保知 祖父

おきて

おきな 続後紀於伎奈 万和同 翁

おふな 老女之 古意余斯ハ老ししお言しきべ 和嫗と於無奈 無ハ與の誤

おのれ おの

紀飫迺餓 謌同 万於能礼 字同 己

おとな 大人の略

おもて 紀於謀提 万同又於毛 面表同

および

び 手足の指之 和由比又於与比 指と奈加乃於与比 拇を於保於与比 食指を比刀佐之乃指 中指を奈加乃指 無名指と奈六之乃指 季指を古於与比 指

および

古今集 おふの浦の山田とな おふの三言 おほ

宇と手ふ轉ずる例まぎおとをさまふ　つとむるて此外多し

香云真名伊勢物語ハ證と形ぶり麗景殿女御繪合記の撰者ふ心もおとゞすとさ与云和名抄地名ふ及於とおヨキと訓なきハ於の假字なることと論なし

び 及之古伊勢物語及宇を上の指ふ借り用

おとど 後ふ大臣を称しておとど云大殿の略

おそひ 於 曾比 壓

おりべ 官名之 和於里倍 織部

おふし 字於不志 和同 註不言也 瘖啞

おゐる

官名 和於

保爲 大炊

おほゐ 草之 和於保爲 註可爲席者也 莞

おほし 草之 和於保之 大黄

おほ

おふね 大根之 古淤富紀万同 蘿蔔 又萊菔 菔蘆菔

おはぎ 万宇波疑又鬼牙子 内膳式蒿之字 和薺蒿 ハ手ふ摘する例 於八八誤

お

ほひ 野菜之 和於保比 苜蓿

おくて 稲の遅く熟 和於久天 晩稲

おどろ 字於度呂 棘

字 藪

おふる 万於布流 古催馬楽哥同 生

おきび おき 古今物名おき 字於支比 和同 熾

おに

び 鬼火之 和於迩比 註人及牛馬兵死者血所化也 燐

おほを 鷹の具之 和於保乎 絛

おほか 和於保加 又流… 轄 … 販也

縿車

おほて

和於保和 註車輪郭曲木也 輞

おもし 和権衡を波加利乃於毛之 重

お

續云古本今昔物語巻廿三丁諦りをし心ヲ又諦りノ餘云々

ほみ
褒　大御代をほめ大御哥ほむと云ふ　皆同　紀 於朋漽　仏足石哥 同
をほひ おほふ おほへり　古 淤幣理 同　字 慢覆と奴利 於保不　和 車具幣衣と久飛 於保比　覆
をほさ おほし　万 於保佉　多
をもひ おもふ おもへる

古 淤母比 又 意母布　紀 万 同　思
おろ

し　万 於呂之　和 御鞍と久良於呂須　卸
おろそ　おほろその略なり 大かた凡かかりし用ふ　続紀 万　凡
をか

る　仏足石哥 於刀乱　竟宴哥 於刀良之　劣
をそし　字 於曽志　和 鴑を於曽伎宇馬　遅
をなじ おやじ　万 於奈自

又於夜自　同
をくる おくる　万 於久理　和 同　贈 又 送
をくる おくれ　万 於久礼　後

をこし おこる　万 於許之　起 又 興 發
おこせ　万 八塩か漆而於己勢多流の俗おこせ同　遣
をさへ

万 於佐倍　押
おそる　字 於曽流　恐 又 懼
おびゆ おびえ おびやす　字 於比由　愕然
をぼ

る　おもおもしき事より出る言に遠江人是とおもる也　溺
をごり　天ほこりの意なるべし　奢
をふれ　和 於布須 雑藝部に出　拍

おほせも保と書るところもあり

撰紀北六六區茂能於多鹿奈毘　私記曰雲乃於支天也

大内ハ保宇の約 布赤ならバ與ゑも少ナく云 大市ハ保以の約 此ちる也 布の約ちとなり 轉じておふちと云

典云春海翁ハ小稲の義とてをし稲とせられたれど別に考ふる旨を志るべく新古今の哥よみたうへさくおし稲とよぶべき 新勅撰のをさ田のおし稲とあるはよめるべし

浮
をらび おらぶ　万 於良比　叫
をよぎ　字 於与支 水中と行也　泳
おろの

万 於呂可　愚
おぼえ　おもほゆより出　覚
をふせ　続紀 於不世　万 祝同 又 続紀 万 於保世 出る処あり　字 和 布をは保を通へし出る
おふち

多し　命
をきて　すべてとして 行定 るべし　掟
をたぎ　和 於多岐 山城郡に　愛宕
おふち

讃岐郡に　和 於布知　大内
おふち　播磨備中郷に　和 於布知　大市
おふみ　因幡郡又石見郷に　和 於布美　邑美

おほく　備前郡に　和 於保久　邑久
おほち　石見郡又能登郷に　和 於保知　邑知
をざの

大和郷に 尚 意佐加　和 同　忍坂
をきつ　駿河郷に　和 於支都　息津
おしね　新古今集 雑哥下 後頼哥

山田のおしねおしこめて世とひさきし
をほち　万 於保知　大道

四言
をほぞら　字 於保曽良　太虚
をほみま　民 於保美麻　御體
お

古本催馬樂哥 於止牟須女

續紀 於毛夫氣

ほきみ 古意富岐美 紀万同 大君

おほおば 祖父の母也 和於保於波 曾祖母

おほ

をぢ 祖父の兄弟也 和於保乎知 從祖父

おほをぢ 父の弟之 字弟乎地 弟ハ於ト 於刀之 父の兄ハ 字延乎地 阿叔

おとうと おと 男子の後に生し 和於刀 宇刀 竟宴哥 於登飛女 弟

おほよめ 長子の妻也 和於保与米 姒

婦

おとよめ 次子の妻也 和於刀与米 娣婦

およづけ 茅隋之奉た いの條よ見

を

とがひ 字於刀加比 和同 領

おもかげ 万於毛 可宜 面影

おもむく 面向之

赴

おむかし 面向ハしきこし 竟宴哥 於牟迦斯 字偉愛 と於毛我志と訓るも同 同註悦之奇也

おもねる 顔面とも訓バ於の

假字疑あし 阿容

おほとり 和於保 刀利 鵰

おほかみ 獸也 和於保加美 狼

おほじか 和於保之加 註 鹿而大者也 麋

おほづめ 和於保豆米 註 蟹大脚也 螯

おゑむ

し 字於米 虫 和同 蚰伊 和 虫

おほでら 木之 和於保太良 食茱萸

おほゑみ 草之 和於

保恵美 於ゑみの処に委し 黄精

おほばこ 草之 字於保 波古 和同 車前

おほどち 草之 和於

保刀知 和於保都知 茶

おしくさ 草之 和於 之久佐 玄参

おほびる 草之 字於保 比留 和同

大蒜

おほみら 草之 和於 保美良 薤

おもだか 水草之 枕冊子 面高の意ふいへり 和奈求爲 澤

瀉

おほぜり 草之 古本催馬樂哥 於保世利 和當歸とも訓 大芹

おごのり 海草 ミ 於期

菜 和

おほがね 和於保 加祢 洪鐘

おくつき 万於久 都奇 墓

おほ

たて 葵具之 和於保土 古註 周禮 楯者也 櫓

おばしま 字於波志 和同 万 檻

おほつぼ 尿の器之

和於保 都保 虎子

おもづら 馬具之 和於毛都良 籠頭

おほゆみ 戰具之 和於保由美 弩

おびのり 紐具之 和 於比刀利 韠韈 おびかは 帯革之 和 於比加波 鞓 おびもの

[illegible] 紀 於魔細廛 字 於布 和 於無毛乃 佩 おりもの 和 於利毛能 又加無波太 鮭似錦而薄也 綺 おほく

ひ 衣の前の襟之 和 於保久比 衽 おいかけ 和 冠乃乎又保久 須介又於以加計 緌 又老繫 おほふへ

和 於保途倍 ふへの汲ふ乗し 苞苴 おほみき 古 意富美岐 紀 同 大御酒 おのく

すくく 已々 こ 各 おほさひ 紀 淡等娜比 喧響 おとなひ おとなふ おとなへる 紀 於虚奈比 續後紀 行布

行 およづれ 續紀 於与豆礼 万 同 妖言 おだやか おだひ 續紀 於太比 式祭文 おだやか 同

穩 おもほえ おもほゆ 万 於毛保由 私足石哥 同 所思 おぞよか 字 於曽与加 鞋 美麗皃

嬋媛 おこたり 行解 らん 怠 おどろく 字 於度呂久 驚 おびや

ほ 字 於比 比須 憎 又惏 おぎのり 字 於支乃利 賖 おろそか 字 於呂曽加 疎

おほろふ [illegible] 同語 衰 おそはる 字 於曽波留 魘 おでぬ

ふ 字 於巳奴不 補 おもかに 医心方 於毛加介 面皮 面皮醜者謂面皮也 おしてる 難波

冠辞之 古 於志呂流 紀 万 同 おしぬみ 大和郡 紀 於尸農海 忍海 おばらき 上野郡 和 於波良岐 邑楽

おいたみ 出羽郡 和 於伊太美 置賜 おほいた 若狭郡 和 於保伊太 大飯 おほい

た 豊後郡 和 於保伊太 大分 おさかべ 伊勢 又遠江 和 於佐加倍 刑部 おさうへ 摂津 郡上

同訓 和 於之加倍 有ハ誤 忍壁 おほさひ 土佐郷 和 於保左比 大忍

五言 おほきうみ 和 於保岐宇美 溟渤 おほたから 和 於保太加良 又比止久佐 人

民

おほをぢ 字於保於 保地和同 曾祖

おほかふち 氏之古凡河内紀大河内 是同氏と云

凡大通 ー用

おのづから 已隨 也 自

おびきばり 和於比之波利註 腰左右肉處也 膁

おほおよび 大指之和於保於与比 拇

おすめどり 和於須賣度里 護田鳥

鸂鶒

おほねむし 和於保稱無之 蝗

おそきうま 和於曾岐宇万 駑馬

おにやらひ 鬼ハ二言にやらひハ也部にあり 追儺

おほほれる 万葛英会延 於保登礼流

承蔵 云ゝ

おきなぐさ 草之和於支奈久佐 又奈加久佐 白頭翁

おほきさみ

草之和於 保々曾義 虎掌

おろかおひ 自生稲之和於路 加於比又比ゝ豆知 穭

おほうばら 草之和於保宇波 良又佐流刀里 菝葜

おこしごめ 和於古之古米註 以糯米煎作也 粔籹

おし

まつき 和於之 万都岐 几

おもしろ 紀於母之楼 釈五字同 面白 何怜

おも

よわし 面柔字於 毛与和志 媃

おもほてる 紀忽然作色と訓 字於毛保弖留 喟然

おふ

しあま 丹後郷和於 布之安万 凡海

おほやまと 國之和於 保夜万刀 大和

おほ

ほしく おほしくほし 万於保 保之 欝悒

おのがおし 万名寺郎 志部 小工 拾遺物名

六言

おのごろじま 古於能基 呂島 磤馭盧島 紀

おほきみのかは

近江に在 万於 吉奈我々波 息長河

おほしかふち

氏と凡の二字をよすしるなり今おほしを唱ろハ是そのまゝ上のおほを省ちいへるなり 凡河内

氏之古凡河内紀大河内○是ハ同氏なれバ共におほかふちとよむべし 續紀大押

黽

おほぢふぐり 蟾蜍の子之字於保地不久利和於保知加不久里 螵蛸

おもはくそ 面黒子之和於 毛波々久曽

おもむろ

眷云姫蔓
ふく人と云
いよしきる
どちらの
条の説と
なぐさる
何すぞや

おむもあべつ
於の假字な
まべ廿蔓の
あしく姫
蔓のうち
ふへしともむ
ふの話のあ
ちぎるの
処され

ら
草 和 於無奈加豆良 芎藭

をにのやがら
草 字 於介乃也加良 和 同々波華 續斷

おほ
みるぐさ
草 和 於保美流久佐 茸蓎子

おむものいる
和 於無毛乃以流 馳射

おぼつかなき
万 於保束無 欝悒

七言 至十四言

おほとのほかひ
民 於保登能保加比 大殿祭

おほおほ
ちをぢ
曾祖父之兄弟之和 於保於保知乎知 族父

おもとびとまちぎみ
官名 和 於毛刀比刀
万知岐美 侍従

おもとびとめうちぎみ
同 和 於毛刀比刀米宇知岐美 侍従局

おほみこともちのつかさ
同 和 於保美古刀毛知乃都加佐 太宰府

おほき
むだちのつかさ
同 和 於保岐無太知乃司 正親司

おほゐのつかさ
同 和 於保為乃豆加佐 大炊寮

おほとねりのつかさ
同 和 於保刀祢利乃豆加佐 大舎
人寮

おほかしはでのつかさ
同 和 於保加之波天乃豆加佐 大膳職

お
ほくらのつかさ
同 和 於保久良乃都加佐 大蔵省

おほいまつりごと
のつかさ
同 和 於保伊万豆利古刀乃都加佐 大政官

おほいおほともひ
職名 和 於保伊於保刀毛比 大辨
中弁と奈加乃〻〻 小弁と須奈伊〻

おほまつりごとびと
同 和 於保万豆利古刀比刀

參議

おほいものまうすつかさ
同 和 於保伊毛乃万宇須豆加佐 大納言

中納言と奈加乃〻〻 少納言と須奈伊〻

おほいまうちぎみ
同 和 於保伊万宇智岐美 大臣

おほ
まつりごとのおほまつぎみ
同 和 於保万豆利古刀乃於保万豆岐美 太政大臣

濱云蚪ハ蚘の誤なるへしいふかとすれバ和名抄蚘虫唐韻云蚘蛕田音蛸蛔人腹中長虫也病源論云蚘[今按一名寸白]同又飲白酒食生栗等所成也とあて今も俗くるみ虫と音まて呼来るを思へバ加伊ハ田の音を直轉せるなるべし

字彙[品薬乃加比]典云買易語の本、一ツ意なるべけれど

○加部

一言

か

加。賀、架。嘉。迦。伽。可。河。何。荷。珂。柯。舸。軻。訶。歌。甘。間。

箇。介 清音 賀 清濁二音

我。俄。蛾。峨。餓。鵝。雅 濁音

鹿。鹿。箇。蚊。香。日 訓

二言

かほ 人の面ヽ[万]可保[和]顔面を加保波世又保々豆岐 顏 [字]万安比目同

かい 虫[字]加伊 蚘

かい 舟の具ヽ[字]加伊[和]

同 櫂

かひ 海つ物ヽ[古]加比[万][和]同 貝

かひ 虫[字]加比 蛺

かひ 山の間ヽ[古]加比[万]同 峽

かひ

稻の穗[祝]加比 頴

かひ 食器ヽ[和]加比 匙

かひ 國[和]加比 甲斐

かひ かふ かへる 鳥獸をかふ[古]加比[紀][万]同 飼

かひ かふ 物を物と易ヽ[新][万]加比の辭を借用[字]加布 買

かは [古]迦波[紀][万]同 川又河

かは [新][万]加波の辭を借用[和]加波 皮

かへ 木[和]加閇 栢

かへ 木の子ヽ[和]加倍 榧子

かぢ 木綿の木ヽ[字][和]加治 穀

かぢ 舟具[万]可

[字]加礼比[図]糧 可里比

買ハかへんかひかふと活用し、易ハかへんかへかふかふるかひかふるふと活用まて三言かへるの条合せてみるべし

うつ木物語ホうてハを鳥まて山てとまて

[治字][和]同 械

かぢ 金作ヽ古訓加太忠太忠の約治ヽ證ハ鑄作と伊[世]治[字]ちふ也[和]鍛治條ホ俗云鍛冶訛也かし是ハかう文字ほの其國ホも加治の治ハ假字まて別ヽ 鍛人

かず [万]加 數

三言

かたは 不具の人ヽ片羽の意 殘廢篤 [戸令]

かため [和]加多為又保加比比刀 乞兒

からべ [和]加宇倍 首

かはち 頰ヽ[字][和]加波知 酺又顴

かはぎ [字]加波[和]同 肌

かひな [古]加比那[字]同 肱又肘

かひこ 鳥の子ヽ[和]加比古 卵

かひこ かふこ 虫ヽ吐ヽ糸

かひこ [万]蠶ヽ[和]加比[古]支古加比須 蠶

かへる [和]加閇流 [鷹鶻]二年色 鴘

かへる 卵化ヽ[和]加閇流 孵

かへる

かはづ かひる かへる [古][万]河津[字]加[紀][和]加閇流比留 蛙又蝦蟇

かへつ [古]可敝流[紀][万]同 歸

かつを 魚ヽ[字]加豆乎[和]同 堅

かれひ 魚ヽ[和]加礼比又加良衣比 王餘魚

かれひ かれいひ 乾飯ヽ[古][万]可例比[和]同又加礼以比 餉

春云張物あらくの披物をえつく同義之轉ふるへあらの有ふ也と六韵へしふれなくきちえこ潜を水とかづく意之
春云東遊譜加保

かしは 木之[和]加之波 [古]本催馬楽同 槲

かしひ 木之[字]加之比 樣

かへでかへるで 木[万]加敝

流豆[字]加 反天[和]同 鶏頭樹

かにハ [万]櫻皮[古今物名]かにはざく ら[和]加波又加仁波今櫻皮之 樺

かづら 之[古] 蔓草

迦豆良[紀][字]同 葛

かづら [古]可豆良[万][和]同[和]註髪少者所以被助其髪也俗用鬘字非也 又蘿鬘比加介加都良 髪

かいる 之[和] 涤草

加伊奈註 刈安草 黄草

からえ 草之[和]加良衣 又加良可之波 草麻

かはな [硯]川菜[土]今物名かはなぐさ[和]加波奈

水苔

かそほ [万]可里保 假廬

かはひ [万]可波須 交

かはや [和]加波夜 廁

かもえ 屋見之[和]加毛衣 鴨柄

かはら [字][和]加波良 瓦

かなへ 鰲食器之[字]加奈反

[和]嶋と阿之賀奈倍 爺と赤路賀奈倍 鑼

かはるがはる [万]可倍古本催馬楽 [同]竟宴哥可波留 替 又更交

かづく

水中を行之[古] 迦豆岐[紀][万]同 潛

かをる 香気之[万]香乎礼流[字]加乎留 薫 郁[字]淑

かわく [字]可和久 乾 又燥

菑とそやうりて字鏡の加乍菑と用ひしと云人あれと東遊ちるか心正しともえらし此假字古書に難ちりとへ志らく 万葉と字鏡ふうりてあるへきと多く八假字拾要ゟ論セし

竟宴哥可和可之 不轉

夷云拾遺物名ふ夾申と彼江ありそ之又元真集ニもあらうの江ささるこくかう

齊明五年紀 箇播羅 川上之

かぞふかぞへ [万]可蘇倍 數

かよひかよふかよへる [万]可欲布[古]本神楽哥同 通

かなひ

かなふかなへる [万]可奈比[字]加奈不[竟宴哥]同 叶

かたへ 之[万]片方 傍

かのえ 十幹の之[金]庚之 庚

か

から 加波良 河原

かぜふ [字]加止布 諠

かはな [医心方]加波奈 鼂畓 鹿西間生鯥 赤鮑迹之然

かくふ [和]加久布 圍 椨

かゞふ [和]加波和 伊勢郡之 河曲

かふち 國又郷之[和]加布知 河内

かふの

のき 近江郡之[紀]鹿深

甲賀

かはそ

かまふ 近江郡之[和]加万布 蒲生

へ 飛驒郷之[和]加支倍 高家

かしを 淡路郷之[和]加之乎 賀集

かはし 肥後郡之[和]加波志 合志

かのしひ 筑前郷之[古]訶志比[紀]同 香椎

かなふ 筑前郷之[和]加奈布 金生

越前郷之[和]加波比 川合

かたゐ 大和舊地名[紀]伽哆韋 片居

かほや 上野地名[万]可保夜かぬま

かはひ

かへる 越前地名 [万]可敝流
かづぬ 山城地名[古]加豆怒[紀]同
かゞひ かゞふ [古]賀賀比 加賀布 耀

歌
かなづ [古]訶那傳 ぐハ づハ清用す 奏

四言
かみおつ 雷の落る[和]加美於豆 又加美刀介 霹靂
かぢとり [和]加地刀利 檝師
か

かいがね 脊の下る[和]加伊加祢 胛
かはむし 虫る[和]加波無之 烏毛虫
かぎろひ [古]加藝漏

はほり 虫類る字[和]加波保利 蝙蝠
かまづか 小魚る[和]加末豆加 鮇

肥、後ふかげろふとも云 炎 又火影る又朝夕の日気又遊糸
かぎろひ 虫るかげろふとも[万]ニ 蜻蛉 蜉蝣の字を借
かはたけ

[和]加波多計 帯ふ皮ある竹る 河竹ハ借字 笘
かはほね 水草る[和]加波保祢 骨蓬
かひろぐ [和]加比路久 註舩不

安也 舥
かうぶり かゞふり [和]加宇布利 冠
かはらけ ゑ毛笥 土器

かすがひ 門戸具る字鎹と加須加比 [和]鎹と阿介賀須加比
かせづゑ 杖る[和]加勢都恵 鹿杖 又撥首杖
かはら

きを 打穀具[和]加良佐乎 連枷
かぐはし 香澄る[紀]伽愚破志[古] 同 常ハかうばし 馨
かくさ

ふ [万]可吉佐布 佐布の約須ふてかくれる 隱
かたらひ かたらふ かたらふ [万]語可多良比 相語
かたは

ら [和]脇肋と加太波良保祢ふ訓 傍
かゞなく かがなく [古]迦賀那倍 [紀]同 考
かならび かハ 假令

あらんパ八不在る 必
かなしび かなしみ かなしぶ かなしむ [万]可奈之備 悲
かぎよふ [万]加我欲布 又蚊蛾欲布

炫
かへらひ [万]還比 又 奴礼濱 還 又 歸
かほばな [万]容花 又 可保婆奈 狼花

かほどり [万]可保等利 容鳥 又貌鳥
かはぞひ [万]河蘇比 川副
かたし

八 入名 又[紀]柯陀之波 堅石
かたもひ [万]片境 [紀]片椀と訓
かたづく [万]可多都久 頭伎 片着

かづのき
木こ[万]可頭乃木 楮 又穀木
かづしの
下総郡[万]可豆思加 葛飾
かづ

らき
大和郡[古]迦豆良紀[紀][万]同 葛城
かいごのや
上野郷[和]加以加也 桂萱
かさとり

讃岐郷[和]加佐乎利 笠居
かよひく
[万]加欲波久 通

五言
かはのかみ
川神こ[和]加波乃加美 河伯
かはびらこ
飛虫[字]加波比良古 蝶

又蛺
かたつぶり
虫こ[和]加太豆不利[字]同 蝸牛 又蝓
かつをむし
[和]加豆乎無之 又赤

久奈支注小虫乱飛也 蠛蠓
かはらふぢ
葛類[和]加波良布知 皂莢
かはやなぎ

木こ[和]加波夜奈支[字]楊同 水楊
かはねぐさ
草こ[和]加波祢久佐 女青
かたをなみ

[万]満乎無○片男波こ此よふハ誤
かなづなゐ
[和]鐵索井也 加奈豆奈為 桔槔
かくさはぬ

春云和字正濫抄ニ
江次第ニ加久濃と云
和名抄こ假字ニよりて
とさりとわしみえるあ
ま、和と波と通すれ
ところとよりくり今
考ふ略本和名抄
ニハ加久乃安波とあ
結果をあつむすび
のこととせ説てこれ
常ことかもかえれ
この假字ハいかなる
く考定す

かくさふ
[万]加久佐波奴 又隠障 不隠
かはころも
皮衣こ[和]加波古路毛 又加波岐奴 裘
かはら

ゑ
[和]曲几鑿こ加布良恵利 鈴
かくのあわ
餅類こ[和]加久乃阿和 結果
かのへ

りうつ
[和]雑藝こ加倍利宇都 擲倒
かへりみる
[万]可敝里見 顧
かみつ

ふさ
國こ[和]加美豆不佐 上總
かたちはひ
[兎]加太知波比 價
かはあみて
[兎]加波阿弥弖 澡浴

六言
七言
八言
かつをいろり
[和]醬梅類こ加豆乎以呂利 堅魚煎汁 又賦役令
かた

じけなし
[彙]可多自気奈忘 忝 又辱
かへりまをし
かへりハ三言ふ云ニ云 もしハ未部ふ在 賽

かはちさのき
木こ[和]加波知佐乃支 賣子木
かはらよもぎ(からよもぎ)

草[字]辛与毛支[和]加波良与毛岐 菣
かはらよもぎ
草こ[和]加波良与毛岐 白蒿
かははじ

春云支ハ支宣於乃伎の省支 菓字鏡等 之御国の 皆きの假 古書ハ 字ノ用 略字で 〜より建 を違とさる類こ支

あみ
木 和 加波 波之加美 呉茱萸

からはあふき
東 和 加良須安布支 射干

かみ

おとしな
草 和 加美於古之奈又加万奈 苦芙

かはたれどき
万 あさけきの 加波多礼等杼

う

たかひのは
越中川名 万 可多加比我波

かはくまつづら
木 和 加波久末豆良又久曽末由美 衛

弓

かたのしきのいひ
和 加太加之支乃以比 注 半熟飯也 餐饙

〇幾部

一言

き
幾。支。伎。岐。記。紀。枳。企。奇。寄。綺。騎。旣。棄。巾。鬼。祈。祇。
機。基。忌。耆。嵴。吉。 清音
藝。疑。擬。宜。義。儀。蟻。 濁音
木。樹。寸。城。來。

お伎の音あくうとあくび

衣。服。著。柞。酒。 訓

二言

きじ
鳥 ことも 支義之 和 支々須又支之 雉

きじ
万 幾 受 疵 又瑕

きえきや
万 幾延 竟宴哥 同 古 都紀波岐

消
開由久ゆゑハ来経行こ消ふあくれ

きは
万 伎波 和 髪際と 加美岐波 訓 際

三言

きはだ
木 字 支波太 和 同 黄蘗

きづな
和 両訓 在 鶯 阿之平乃大岐豆奈 繂 絆

き

たひ
和 支太比 乾肉こ字 腊

きたひ
字 支太不 鉄ときたふこ 鈇

きはひ
万 伎保比

競
きそひきそふ 同

きはみ
万 伎波美 極 又究

きてえ
古 岐許延 紀 万 同 所聞

きらひ
紀 岐羅毘 語 字 同 嫌 又棄

きのふ
万 伎乃敷 昨日

きのえ

十幹の一、木の兄こ 甲

きらひ
万 霧相 又 霧合

きづき
出雲地名 出雲風 土記 支豆支 杵築

四言

きゑむバ　和支恵無波 注 蜻蛉小而黄也　胡黎

きりくひ　伐杌之字 支利久比　杌

き

ぬいた　常云きぬた 和伎奴以太　砧

五言

至八言

きよまはり　浄之まハりハ 辞 祝 浄麻波利

きそひかり　万 服曽比獵　藥獵

きのうつほのみづ　木の穴の水之 和木乃宇豆保乃美豆 又 竹籬頭水　半天河

○久部

一言

く　久。玖。九。鳩。句。約。君。苦。空。宮。矩。倶。匜。衢。孔。丘。群 清音

具。愚。寓。偶。遇。求。郡。虞。供。娯 濁音

來。口。國 訓

後撰 背ハ皆とかけり

春云古事記の哥ニクモヰタチ クモ万葉ニクモヰダチ クモ井タチ ナゞ雲と くもゐ 云遠きく 云ハ始メ ときなどよる

二言

くは　木之 紀 倶波 万 祝 同　桑

くハ　農具 古 久波 紀 和 同　鍬

くず　蔓艸 紀 矩須 万 和 同　葛

くづ　和 金屑と古かけり 須利久都の訓　屑

くひ　古 久比 紀 同 万 十六 首ハ…　杙 又 杌

くひる　古 倶比 紀 同　咋

くい　紀 倶伊 万 同 又 久由 古本催馬楽哥 同　悔

くえ　万 石崩と伊波久叡 紀 以播區 姻輪ハ岩くゆと延へり　崩

三言

くもゐ　古 久毛韋 万 雲居　雲

くぐひ　鳥之 字 和 久々比 古本催馬楽哥 同　鵠

くひな　鳥之 紀 倶比那 和 同　水雞

くじか　鹿類之 和 久之加 字 同 又 於保自加　麞 又 麈

くぢら　大魚之 古 久治良 紀 和 同　鯨 又 鯢

くわゐ　水草之 和 久和為　烏芋 又 慈姑

くひせ　字 久比是 和 同　拙 字書 木頭 和 株を 訓 字書 木根入土 旦根土上曰株 又 短柱

くつわ くつわづら　馬具 和 久豆和 又 久都和都良　轡

くじり　和 玖之利 注 解結者 紀 手抉と多衢餌難 字 釧

くらゐ　和 久良為　位

くるひ くるふ くるへる　万 久流比 和 同　狂

くまち

自利恵留　鷦

圓 鐇 与支久良比毛乃

隠曲路に 紀 矩磨遅 隈

くづる 字 久豆礼 崩

くはし 古 久波志 紀 同 其物とほむる辞也 細 古 目微比賣 紀 眼妙媛 所有て微妙

をくりしれ訓たり

くじく 字 久自久 挫 字 註 屈也断也 又 詘と訓注 折曲也

くらふ 字 久良不 喰 又喫 咋

くいふくハヘ 言のもとロハ也なるか 加

くらじ 人名 紀 衢羅餌 又倉下

くはへ 筑前 郷也

和 久波倍 鍪鑿

くるへ 伊勢朝明郡 和 久留倍 訓覇

四言

くらうど 藏人に 椋人と書く 良宇度を云が如し

くちなハ 虫也 和 久知奈波 蛇

くまのい 熊膽に 膽ハ以部あり

くまのい 藥草に 字 久万乃伊 加乃尓介久佐 和 同 人参

くものい 源順 集に づみとも いざやもろ浪立ぬきてちるまる葦にかける くものいハ此哥上下にい文字とよみくるなり或ハ流よんべし 按此外歌集に猶多し 蛛絲

くれなゐ 染色に呉藍 図 久礼奈爲 和 久礼乃同爲 紅

くるべき 蚕糸具 和 久流閉枳 反轉

くつハみ 和 久都波 義俗云久

万葉今の刊本に都久保里とあるハ字の顛倒の誤とぞ

鑣 くすかし 古 久須婆之伎 奇

くづほる 古 久都保里 老くづほるゝ事也

くるへき 安藝郷 和 久留倍支 訓覓

くさかえ 地名 古 久佐迦延

五言

くさゐなき 獣也 和 久佐爲奈岐 野猪

くりのいが 栗子皮也 和 久利乃以加 栄

くれのれも 懐香と訓るハ不用

刺

くれのれも 韭類 和 久礼乃於毛 集解 呉母 興蕖

くまつづら 蔓草 和 久末豆々良 馬鞭草

くそかづら 蔓草 和 久曽加豆良 細子草

くさあハせ 和 久佐阿波世 五月五日闘百草之戯 闘草

くさもちひ 母子草餅也 和 久佐毛知比 餻

くだのふえ 征戦具也 和 久太能布衣 小角

くつかへる 字 久豆加倍留 蹶

くるすハら 地名 和 久流須波良 栗原

七言

くれのはじかみ 字 久礼乃波自加弥 和 同 又 阿奈波之加美 薑

くつくぼうし 虫之 和 久豆保宇之 蛁蟟

くゑはらゝかす 紀 倶穢簸邏々箇須 蹶散

○計部

一言

け

計。介。氣。家。化。祁。奚。雞。谿。迦。價。稽。希。啓。開。階。戒。該。潔。結。 清音

既。慨。 清濁二音

夏。解。下。牙。旱。偈。宜。擬。礙。霓。凱。愷。鎧。塏。 濁音

毛。笥。食。異。殊。消。 訓

二言

けふ 古 和布 五 同 今日

けひ 越前地名 古 気比 民 同 笥飯

三言 四言

けぶり

けむり 火気 字 介夫利 和 同 煙 烟同

けづる 髪とけづるあり 和 介都留 字 加之良介豆流 梳

けはひ けハ気之 はひハ辞

けづる 古 気頭 流 字 同 削

けぶたし けむたし 烟痛之 和 介布太之 燻

豊云 戀ハこひてひこふと活用し 乞ハこいこひこふと活用すべし

○己部

一言

こ

己。許。古。胡。枯。姑。祜。故。居。固。孤。庫。巨。渠。去。莒。擧。虚。據。興。高。顧。 清音

呉。誤。娯。五。吾。悟。語。後。凝。其。碁。期。虞。御。馭。 濁音

小。子。兒。粉。木。樹。此。是。來。籠。 訓

二言

こひ 魚之 字 古 比 和 同 鯉

こひ 足病之 和 古比 蹇

こひ こてふ こまふ 人を慕之 古 古斐 紀 万 同 戀

こひ

肥字 古由

春云和名抄にコハイと
に強飯の字をあてた
るハ誤也強飯ハ…
ともひて…
硬飯の字…
…

こゆる 物を求る 説気日 乞
利 肥
三言
菜類之和 古保祢 溫菘
こぢ 和古 刀知 箏柱
夜
万古 之地 越道
四言

こゑ 万許恵 字同 聲
こし 古根許 士尓許 而 万許自
こひ 大牛之万事負 乃牛 和古度比 特牛
こほり 万許保 里 和同 氷
こはし 字巳波志 和強 飯を古八弗比 強 又侄
こづみ 万許都 美 木屑
こおうと 紀兄公 又叔父 又女公 又女 妹 古之宇刀 又 刀米

こゐ 鷹ノ云 木居
こえ 紀古曳 万 同又古由 越
こずゑ 木末之和 古須恵 梢
こほり 古本催馬楽 巳保 利拾遺物名同 郡
こよひ 紀虚豫 比 万同 今
ころひ 紀挙盧毗 万 許呂波要 嘖
こまうと 古本催馬楽 哥 古末

こえ 身肉多き 字古衣太
こほ 絃
こ
こしぢ

春云古今…蟋蟀と鳴
…皆古保呂義…
蟋蟀の…
蟋蟀…
…
訓ハ誤也…

宇 十 高麗人
こいひ 和古八伊比 強飯
ほひ 此之ほひ 八 碑
言語
水
五言
の類
筋

こほろぎ 由々和古 保呂支 蜻蛚
こいしろ 伊勢 古以之呂 漕代
こほしき 万宇良胡本斯 邪 懐
こいふす 臥 万許 伊布志 展轉
六言
こわづくり 字巳和豆久利 又志波不 欬
こむさへく 祖母之万 言左敝久
こころだらひ 万許己呂 太良比 心足

このを 和古乃乎 絃
こぼひ 万許 和利 押
こほろぎ 万許 寺 …
こもりづ 万許母 理豆 隠
こぞわざ 去 和佐 諺
こころはへ 意之 八 延
こむらがへり 尺病 和古無良加倍 利 又加良須奈倍 利 轉
このてがしは 木 万古乃 弖加之波

こ ろ

兒手柏

こいまろひ

四言こいふすの条ニ云 展轉 反側

○左部

一言

さ

左。佐。差。瑳。磋。沙。娑。砂。紗。散。射。作。社。者。草。舎。積。柴。

霜 清音 謝。坐。座。藏。邪。装。奘。奢。濁音 狭 訓

二言

さは 和名左八 澤

さハ 古佐波 紀万同 多

さを 舟具 古佐袁 紀和同 撟 又竿

さ

えさゆ 楽 万左由 冱

さへ 実さへ花さへ其の葉さへ… 万左倍 副 又並 戦

さひ 霊佐比 鋤

三言

さゝえ 月ゝ 和佐左衣 榮螺子

さひち 魚ゝ 字佐比知 鰂

さすえ

盃類之 和佐須衣 器似斗屈木為之 棬

さらひ 農具之 和佐良比 杷

さはり 万佐波利 障

さへり

和佐波利 月水

さわぐ 万佐和久 字同 騒

さづけ 万佐受気 授

さすき 古佐 宇岐

假庭

さうえ さうゆ さうへ 古佐迦延 紀万同 又紀佐伽摩曳 万同 さのふ如書ハ誤なり 栄

さうひ 紀万 鏡部

平坂合部通ハし用 境

さうひ さうふ 比如不 如通 逆

さそひ さそふ さそる 字佐 曽不 誘

さ

つを 万佐都雄又薩雄 之佐豆人 獵男之

さほぢ 天和ニ在 万佐保治 佐保道

さへき 氏又 安婁

郡和佐倍之 佐伯

さはた 佐渡郡 和名佐波太 雑太

さはら 筑前郡之 和名佐波良 早良

さ

うま 下總郡之 和名佐宇万 相馬

さはひ 駿河郷之 和名佐波比 澤食

四言

さをしか 紀左鳴子加 万和同 牡鹿

さひづる さへづる 鳥の鳴之 万佐比豆流 字左叉豆留 和同

佐支奈牟をサイナムと佐伎波比をサイハヒと云ハ音便也

[紀]不流離をサスラヘと訓り

囀

さいやけ 菜類之[和] 佐皮夜介 黄菜

さかづき 酒器之[和] 佐加都支 盃 又杯 盞

さひづゑ

さ

いだて [和]佐以多天 戲射

さいなむ [字]佐支奈牟で 支也伊ハ通例之 訕

さいづち 工作具[和] 散伊都遅 桙㮄

さきはへ さきはふ さきはひ ちハ [詔][祝]同 仏足石

鋤属之[和] 佐比都恵 鉏

哥佐伎波比[万]左吉播布又さいハひハ平言之 羽日 幸 又福

さもらひ さもらふ さぶらふ さむらふ [古]佐毛良比[万]佐布良比 同 部侯布 侍 又伺侯

さ

さまよひ さまよふ さまよる [万]佐麻欲比 [字]同 呻吟

さすらひ さすらふ さすらへ [祝]佐須良比[字]佯 佐須良反阿留久 伶

征

さそのし さそのへ

[字]佐和加波志 [万]佐和久同 騒

さゝく 物音之[古][紀][万] 佐和佐和

さゐさゐ 物音之[万] 狭藍左諧

さゐく 物音之[古] 佐恵久

さゑぎる 障切 遮

さをばし 橋之[紀]佐 鳥齋赤

さひもち 神之[古] 佐比持

さいたま 武蔵郡[和] 佐伊太末 埼

玉

さいぐさ 氏之又加賀飛驒郷 [和]佐以久佐 三枝

さゞいへ 上野郷之[和] 佐々伊倍 雀

部

五言

さへのかみ 道神[和]佐 倍乃加美 道祖

さばへなす 冠辞之[紀]五月 蠅を左蠅陪 如

五月蠅

さねかづら さなかづら 蔓類之[古]佐那葛 [字]同又[万]狭根葛[和]同 五味

さるを

ごのせ 苔類之[和]佐流歩加 世又かつ乃古介 松蘿

さゞれいし [和]佐々礼以之 細石

さか

みづき [古]佐加美豆久 [万]佐可弥豆枝 酒宴

さにづらふ [万]狭丹頰相 又左耳通 良布○紅色の匂を云

さ

さゝらをぎ [万]左佐良 佐良 乎疑 細荻 又小荻

六言 七言

さやつきどり 鳥之[和] 佐夜豆支土甲 鶺鴒

さはちらく

二字一言 並二 万三 重二 万六

水平 水良ミ

ぎ 草之和佐波阿良々岐又阿加末久佐 澤蘭

さゝらえをとこ 月之万左佐良提壮子 提ハ延部ニ在 壮ハ衷部ニ在

○志部

一言

志 志。士。仕。之。芝。師。四。斯。死。旨。指。始。信。進。新。式。試。此。紫。次。叱。司。伺。詞。嗣。侍。詩。思。偲。施。絶。璽。尸。子。矢。笑。資。茲。緇。

清音 時。事。辭 清濁一音

自。慈。兒。寺。盡。背。珥。餌。 濁音

羊蹄 絽万志 一字一言

機。石。爲。已 訓

二言

志ひ 木之古点 比 絽万同 椎

志保 海水之万思保 字志保弥良 潮又汐

志保 煮潮作之古 志未 絽同 鹽

檜垣嫗集四王寺山……

春云須児と賎児の……法師……

春云志ひるハひることあり志ふるとも云へ 狩使字拾要ニ委 字志比天会 強言

志ゝ 万斯和和同字断 をと於毛之志和ゝ 皴 く皺

志ぢ 車具之 和之知 搦

斯闍利 倭文 志づ 下つ子の略 万須児の須ハ志 豆の約 古今集倭文ハ賎を兼 賎

志つ 古の文布ハ紀之都波飛也之頭於利又

志じ 万まのゝ寺師 まのゝ心をまもるとも 自又 万之

四時 繁 志は 物の至極と云 古志波

三言

志たを 前夫之和之太乎又毛刀乃乎刀古

志うと 夫の丈之和之宇刀 舅

志ろを 魚之和之

呂乎 鮊

志じみ 小貝 字之 自弥 和同 蜆

しづえ 下枝 古志 豆延 紀同

志をる 草木の万之乎

礼豆 新万 芝折礼者 萎

しみづ 和之美豆 古本神樂歌同 すみ水之す美の約志之 清水

志ほで 馬具之和之保天 鞖

志ひね 和之比祢 不擬不痛又堅強者也 皮肉腫起 瘤

志こづ 讒之字 志己豆 譖

しまへ 紀志 埋瞥

万同 後

志ひるさいて 万志斐紀之非天 強

志さひしそ 古斯多布 万之多比 慕

古本神楽哥ニ志波須と訶了

竟宴哥 斯朗陀幣

しぶき しぶき
字 志布 万治
縮 又 幡

しづの しづり
万之頭気師 記志 都宮尓志静来
静

しづく
万四 頭久
滴

しづく しづむ
古本催馬楽 之頭久
沈

しなひ しなふ しなへ
竟宴 哥之

奈 又
所乗

しはす
年極の畧轉之後ニ師走ト書て義を云ハ誤
十二月

しなや
万 歎辞之 思恵也

しざは
播磨郡之 和 志佐波
宍粟

しはつ
人名又地名 紀 河邊 礒泊 万 四極山

四言

しうとめ
夫の母 和 之宇刀米
姑

しひなせ
和 之比奈世 註 有皮而無米也
秕

し…

しき
和 之ゝ和岐 注 肌膚之肉也
膄

しはぶき
字 志波不支 和 同
欬嗽

しほさゐ
万 之 潮騒

潮佐 為

しろたへ
古 斯漏多閉 万 同
白布
布又白如 以白拷又白木綿又白細 如八借字

しきたへ
るら 色の

物子熨らしたか 万之伎多倍
敷栲

したのひ したぐひ したぐる
翻 順比
順 又 隨

しへたけ
霊 志倍太

古語拾遺 斯利久迷縄

計
弊

しづくら
下鞍之 万 志都久良

しづまる
万 斯豆米
鎮

しら

えぬ
万 之良延 奴志られぬ

しなえて
万 念之 奈要而 ○之萎而とも書てしなえくと うなたくさきよしと云こ

五言

五十言

しもつふさ
國之 和 之毛豆不佐
下總

しとびし係
肉醤之 字 奈比之保

和 之ゝ比之保
醢

しめくなは しりくなへ
祭祀具之 古 尻久米縄 和 之利久倍奈波
端出之縄

又 注連

しりよりくちよまこくやまひ
病之 和 之利与利久智与利古久夜万比
霍亂

○須部

一言

ス

須。春。周。主。取。素。數。寸。秀。珠。殊。輸。酒。蒭。州。洲 清音

万七 十四丁 廿六 十丁 住歴 住ハすまひ 倹子住居と 今ハ誤

春六 續日本紀十六 三十 縣大養宿祢 須奈保と云人の 質直の意まや

儒、孺、聚、受、授 濁音

栖、巣、簀、簾、渚、爲、酢 訓

二言

すぢ [字][和] 須知 筋

すず [古] 須受 [紀] 同 鈴 又鐸

すすふ すゝ [字] 須不 吸

すゑ [古] 須恵 [紀][万] 同 末

すゑ [和] 須恵 法 假覆髪 假髪

すゑ [和] 上總郡 季 周淮

すゑゆ [万] 須恵 古 本催馬楽

同次ゆ所 〻ハ誤 居

すは [和] 須波 信濃郡之 諏方

三言

すゞめ [古] 須 小鳥 受米 [和] 同 雀

すくふ [和] 須 久不 巣

すぐき [古] 魚 須受岐 [万] 出雲風土記同

鱸

すまひ すまふ [和] 須 末比 相撲

すまひ すまふ [語] 須末比 [万][和] 同 任

すゞ [字] 須 奈保 質直 倹素 又

すゞし [万] 須受 之[字] 同 涼

すくひ すくふ すくへる 仏足石哥 須久 比 [三代実録] 同

救

すくひ すくふ すくへる [字] 須久不 [和] 須久比刀流 漉

すゞろ [古] 伊須々岐 [紀] 同 伊ハ発語 そゝろ同 不覚 又坐 粛

すはう [和] 國之 須波宇 周防

すがのふ 河内郷ハ [和] 須加不 菅生

四言

すひぢに [古] 神号之 須比智 迩神 [紀] 須毘尼

すさのを [古] 神号ハ 須佐 之男 [紀] 素戔嗚

すゑも

の [和] 尾器之 須恵宇都波毛乃ヌ 須恵毛乃 [字] 窯と 須恵加万 陶

すみなは 工匠具 [和] 須美奈波 縄墨

すみの

え 津國ニ在。えハ 吉の古訓 住吉

五言

八言

すひかづら すひづら [和] 蔓草之 [字] 須比豆良 須比可豆良 忍冬

すまひ

ぐさ 草之 [字] 須 万比久佐 旋覆花

すゑつひに [万] 須恵 都比尓 末遂

すなひ

ものまうし 職名之 [和] 須奈 伊毛乃万字之 少納言

○世部

一言 せ

世、勢、齊、劑、制、西、栖、細 清音

是、筮、噬 濁音

瀬、湍、兄、弟、迫、背 訓

石花 二字一言

三言 せうと

古ハ兄と世うとのひ又衣とゝも云せうとハ兄人之

兄

○曽部

一言 そ

曽、層、僧、贈、蘓、所、泝、祚、且、祖、則、宗、諸、鐏、素 清音

叙、増、憎、俗、賊、茹、序、存、鋤 濁音

其、背、衣、十、麻 訓

追馬 二字一言

五五 弥曽能不

万十卌四丁 十名相 春云そほつとぬ[illegible] そほつすまらひかな [illegible]後撰於ま [illegible] 後撰 [illegible]

二言 そは

側ソバ 岨

そひ そへ そふ

古 蘓比 紀 同 万 添 又傍

そほ

赤土 そほにすむ 紀 赭と 訓 万

曽朋 舟 赭

それ

大隅郡之 和 曽於 贈於

そほ

紀 層富縣 大和地名之

三言 そほき

和 牛馬體 曽保岐 又曽布岐

壓草

そのふ

万 曽能不 和 同 又曽乃 古 本 備馬 樂 美曽乃不

園 圃

又 死面

そなふ そなへ

古 蘓那布

備

そほづ

古 山田 山田の鳥獣のおどろかしふせるものゝ 山田曽富騰ソホドといへる神の名より転

たるの

そがひ

万 曽我比

背向

そこひ

万 曽古比

涯

そびえ そびゆ

通 えゆ

聳

そほぢ

所沾之 紀 曽裒遲

そかは

和 讃岐郷之 曽加波

蘓甲

四言 そこなひ そこなふ そこなへる そこなはる

万 傷之殘之 曽己奈波留

弊

五言 そへくるま

和 後乗之 曽閇久流万 又比止太万比

副車

そふのこみ そふのしき

大和郡之和添上と曾不乃加美
添下と曾不乃之毛

○多部

一言

た

多。哆。丹。他。拕。稲。當。黨。儻。嚢。清音

太。陀。駄。清濁二音

娜

濁音

田。手 訓

二言

たづ

鳥之古多豆万和同

鶴

たひ

魚之字太比和古本催馬楽同

鯛 又 民 平魚

たへ

織物古多閑万祝同

栲

三言

たうめ

和今呼老女鳥太宇米

專

たへ

万安倍倍万多妙

たへ たふ

万安倍子同

堪 又仕敢 通用

たへなる

万多延又多由竟宴哥古本催馬楽哥同

絶

たふる

字太不留

倒

和獣の死ぬ艶かましからぬ体くこの詰八同

た

くのたいしも音便之

たゞき又たづきとも、へるも万石卅九多杼伎

同十二五田時

又折ゝたるむ通りもいへ

いし

船尾和多伊之これ、い平声之

古君是不得歩成嘗藝斯形之

舩

たつき

和多都岐註廣双斧之古万山多豆同

鐇

たづき 手着之便

の意万鶴タツキ又多頭吉

これつと濁る延之音便

たらひ

手洗之和多良比

盥

たをり

山のたをるる処之万手折の字を借て書り

たをる

草木を手して折之万多乎理

手折

たわみ たわむ たわく

万多和美又多和字多和弁

撓

たひ

ら

和陀毘邏万字同

平

たまひ

和倍土都久又太万比

欧吐

たまもの たまふ

古多赤比吉詔同

賜

又給

新万違倍里字太加布

たうべ

古本催馬楽哥左サ乎太宇倍天

給

たがひ たがふ たがへる

古多賀比

違

たがへ

たへ

たぐふ たぐく

紀多虞毘又多具倍万仏足石哥同多具覇利

比 又類 属

たけふ たけび

比不倍通

譬喩 仮令をとらへ、よむもよし同じ

たづね

万多豆祢仏足石哥同

尋

たふけ たむけ

山の頂と云之たむけ手祭之

たぐひ

たお

濱云たふけハたむけと云へし日向と云ふか多武峯をたふのミ、ふと云音便の同例と哥によミしハ堀川百首ふ足柄の山の

たは

國之和太迩波

丹波

たぢま

國之古多遅摩和同

但馬

たふし

志摩郡名續紀神名帳答志

たゞけふ 又催馬楽ニ たけふのこふ てそ不 とあるハ越前の国府の事なり 二の國ハしくもの 与云盛衰記卅七下 小手向ともいへり 学集に説あり

万十五 卌丁 多和也女

春云手火と 爾雅炬 万 焼松とハ別 語也 手火松云 と云語ハ誤り 歟

たいまつもたきまつの音便なるべし

与云大師遺告文貨物 多何遊毛能 文徳紀 尊比 竟宴哥 王津沙 [万] 偉 多々波之 万七五丁 絶 塔浪

たぢひ 河内郡又氏[古]多治比[續紀][和]同 丹比

たけへ 信濃郷之[和]太伎倍佐渡郷之[和]多介倍又多加倍 高家

たけふ たかふ 武蔵郷之[和]多介布 但馬郷之[和]多加布 高生

たいま たぎま 大和郷之[古]當岐麻[和]多以末 當麻

たけを [万]多家乎 壮士

四言

たをやめ 手弱女[和]太乎夜米 婦人

たづかひ [紀]陀豆歌毗 田令

た

たましひ [万]多麻之比 魂

たなすゑ 手末之[紀]多那須衛[和]同 手端 又手子

たのご

ひ 手拭之[和]太乃古比 たなごひとも 手巾

たふさぎ [字]襣を太不佐支[和]襣而無跨謂之褌 須万之毛能又知比佐岐毛乃又松毛乃之太乃

太不佐岐 犢鼻褌

たづのき 木之[和]太豆乃木 女貞

たのはらきもち [和]太加無

良又太加波良 汁竹藪之 篁

たまづし 草之[字]玉豆志[和]豆之加布 蕙苡

たいまつ 燒松之 續松も同

松明

たがへし [字]犂之 加倍須 耕

たがへし [和]多加閉之 以犂加人也 相扠

たがよ

たゝかひ [古]多々加比 開婆[紀]同 戰

たふとし [古]多布斗 又[紀][万]同 貴

たゞよふ [古]多陀用弊流 漂

たまづさ 文と云[万]多麻豆左又玉梓

たくはし [字]塊と太波志

偉[紀]

たゆたふ たゆたへ [万]絶多由多布 多日 多由多布 猶豫不定

たくはひ たくはへ 多久波比 貯

たはぶれ たはふ [字]太波夫流 又太波留 戯

たばこ [字]太波志礼

作劇

たはこと [万]多波許登[和][字]同 譫言

たづさひ たつさふ たつさへ [万]多豆佐波理 携

たけなは たけハ高之なハ辭 闌又酣

たくずむ [万]佇

たまもの

[紀]拖摩暮比 玉盌

五言

たけのかは 竹皮之 和 竹乃加波 篾

たまきはる 冠辞之 古 多麻岐波流 紀 万 同

まぢはふ 万 霊治 波布 霊幸

たまのおや 河内郷之 和 多未乃於也 玉祖

づたづし 万 多豆多頭思 たどたどしきと

たぢまもり 人名 古 多遅麻毛理

六言

九言

たちもとほる たもとほる 万 太毛刀保留 字 多知毛刀保留 徘徊

かむなのうはかは 笋の皮之 和 笋 乃宇波加波 籜

た 多 た

○知部

一言

ち

知。智。池。遅。馳。陳。稚。致。恥。撥。笞。清音

治。地。尼。旎。泥。遅。貳。膩 濁音

乳。血。千 訓

道。路。徑 同濁

三言

ちおも 和 知於毛 乳母

ちはや 衣服之 和 知波夜 襅

ちのひ ちのふ ちかへる

字 知加布 誓

ちはひ 万 千羽日 ○ 佐部さきはひの然不出 幸

ちらふ 万 花散相 ○ 散 と延ぶる語也

四言

ちりひぢ 字 知利比治 塵土

ちひさし 古本催馬楽哥 知比佐古刀称 利 和 郡郷又物名にあり

小 少同

ちかづく 万 知可豆久 近

五言

六言 七言

ちはやぶる 冠辞之 古 知波夜夫流 万 同

ちひさきもの 和 知比佐岐毛乃 生 袴無踦也 褌

ちきりかうぶり 和 知岐利加宇不利 婦人喪冠也 幗

万八 哭二 丁ゥ 喚鶏

○都部

一言

つ

都。通。追。兎。莵。鬪。屠。清音

豆。逗。途。圖。徒。清濁二音

頭 濁音

津。川 訓

二言

つは

【出雲風土記】都波 草之 石蕗

つは

【字】与太利又 豆波志留 唾

つゑ

【古】豆恵 【字】【和】同 杖

又 丈

三言

つはり

【字】孕始兆也、豆波利乃 登支【和】擇食 豆波利 腜

つかひ

【古】都加比【紀】【万】同 使

つかへ

つかふ

【紀】都柯倍【語】【万】同 仕

つむじ

【和】牛馬體之都無之 廻毛 又 旋毛

つゝじ

木之【字】槃を豆自【和】羊躑躅

つ

豆々之 以波 と以 躑躅

つくゑ

【和】都久恵 机 案

つゞみ

楽器之【古】都豆美【紀】【和】同 鼓

つ

【注】豆伊加支乃彼處

るぶ

【万】都流夫 婚

つどひ つどふ

【古】都度比【万】同 集

つひに

【古】都比【万】同 遂

つゞき

【紀】八十連屬と 野素豆々企 續

つゞる

つゞるゝ上の續ー又出づらさ寺も同 綴

つゞら

之【古】 蔓草

都豆良【紀】 葛頭邏

つひゆ つひえ

【字】瘠々 豆比由 費

つたひ つたふ

【古】豆多布【紀】同 傳

ついで ついづ

續連之豆礼の約 田又支ト以ト通 次

つがひ つがふ

【紀】番合之 番

つい

き

豊前郡之【和】豆伊岐 筑城

つゞき

山城郡【和】豆々岐 綴喜

四言

つはもの

【和】都波毛乃 兵

つまづく

【字】豆万豆久 躓 蹶然

つば

ゑむ

【新】都波恵牟 莞尓

ついばむ

【和】都以波無 鳥取食之 啄

つまいと

【和】牛病之

豆万以利 踟蹰

ついひぢ

【和】都以比知 又豆以加岐 築墻

ついたち

月立之

紀につくらふとあるもつくろふのことなるべし別に考あり

文徳紀 繕 波世

ついたても音便也

朔

つちのえ 土の兄也 戊

つのはす 祝 遣 波 字 同 万 都加播佐礼 遣

つゞま

つきのや 数の辞 約

つくろひ つくろふ 紀 豆矩羅符 和 叙 波都久呂比 繕

つく

つのひつくのまる 字 豆久乃布 戯

ついたて 衝立也 支以通

五言

六言 七言

つぬさはふ 冠辞也 紀 菟怒 万 同

つむじかぜ 字 豆牟自 加是 和 同 飄風

つきじらひ 和 豆支之良比 獣角觸物也 觗

つゞらをり 蔓折 九折

つ

くりのハ 和 都久利加波 華

つくのひひ 工類也 和 豆久乃比々 客作兒

つぐみのいひ祢 草也 和 豆久美乃伊比祢 又 保曽之 白英

つハもの

このさ 官名也 和 都波毛乃止都加佐 兵部省

○天部

一言

て

天。弖。低。底。庭。帝。諦。堤。提。弟。 清音

代。題。 清濁二音

田。傳。

殿。泥。埿。涅。耐 濁音

手而直 訓

二言至五言

てふ 古へ何と〳〵いふ事を何てふといひしを中世より轉じててふといへり

てもの 工匠具也 字 弖乃 和 同

鉅

てらふ 賣也 紀 比登涅羅 字 天良波須 衒

てづくり 万 弖豆久利 調布

てらつゝき 鳥也 字 寺豆支 和 天良豆々岐 啄木鳥 又鸖木 方言けらつゝき

〔頭注〕与云灵異記ふ家室伊戸乃ゆ(?)土之家室自家刀戸主ふと(?)まゞ後の俗ちに以て家とふ詰ふハ非す

紀ふ戸母とハ古ハ老女死てまで戸主ふもいふハ ... 俗

等伎波の伎ハ記以の誤

菩今本ニ笘ふ誤

○登部

一言
と
登、刀、斗、等、苔、覩、鄧、騰、滕、藤、得、徳、渡、妬、屠 清音
土、
杜、圖、度 清濁二音
奴、弩、怒、特、迺、耐、儓、杼 濁音
戸、門、與、共、速、鋒、
扉、跡、常、十、鳥、止、迹、音、砥、利、礪、外 訓

二言
とじ 紀覩自 万和同 老若ふよらべ戸主とも云 戸母
とを 古登袁 紀同 十
とひ
古斗比 又 登布 紀万同 問
とぢ 古本神楽哥刀知 竟宴哥同 閉 字紡と刀豆 ... 縫 ... とぢも刀豆の言ハ同

三言
とびを 飛魚と 字鰒と 刀比乎 和鰩同
とりゐ 和鳥居 神門
ときは 万等伎波 常磐
とのゐ 万侍宿 宿と以て云 鳥の假字ふ(ハ)あらべ 宿直
とこを(?) 常を巳字と用 江次第 轆轤
とな(?)

〔頭注〕春云とのゐハ殿居の意まてゐの假字とりいいのくひるてらし本居宣長ら万葉王緒琴ふくりくいをにし

出雲風土記恵曇郡の下ふ繪鞆とあるあり

十市と遠きふいひけるが後ふもみ十の假字とかをあるふなづむるあまし清水氏の委しき考あれどもくふつくしがたし

こての言ハ常ふあぶの字にかゝらべ とこハは常磐の略ふあらべ磐ハ詰と重て切ふ丁

となへ 万刀奈布 字啅同 唱
とらふ とらへ 紀等邏倍 和囚 人と刀良倍比刀 捕
とゞく(?)
古登遠 遠万同 撓
とほし 古登富斯 万同 遠
とほる 古登富騰 紀行保 万等宝利 通
とひ 字止 止布 肥
とほち 大和地名 拾遺集 ... とほちの里の ... 遠ふ ... 十市

四言
とほあげ 和淮南子云越人学遠射 参天而発 刀保奈介 遠射
ともづな 和刀毛都奈 注維舟索 纜
とじきみ 和之岐美 又 閾 又閫
とのひ(?) 万登乃比倍 字刀乃 ...
乃不調
ともなひ 続紀刀毛奈倍 三代実録共比奈 伴
とぶらひ 延た 跳と 訪
語ること
とこしへ 紀等虚辞陪 万同 とこしへの略 長 又鎮
とこは 仏足石哥刀己波 万常登婆
ともしび 万等毛之備 和同 燈火

宣長云とほつあふみ [illegible] 大なるを云 [illegible] 大小魚 [illegible]

とよ云

[遠]遠江哥 等倍多保 美ハ方言

[和]刀保太 阿不美 [illegible]

春云 [illegible]

五言

とほつおや 高祖父 [和]刀保豆於夜

とりあはせ 闘雞 [和]刀利阿波世

とこしなへ 長 前のとこしへに同

とほりぐま 通態 遠江郷之[和]刀保利久万

とほしろき 八河の大なるたり 大

六言

へどり 鶺鴒 鳥之[和]刀豆岐乎之閉土里

八言

とほつあふみ 遠江 國之[万]等保都安布美

とをよろふ [万]取與呂布 具足をいふと云

とほしろし [古][紀]大小魚をとほしろく [illegible] いといふ訓 [万]河登保志呂之

とことほり 滞 [万]等騰己保里

ところづら 薢 草之[古]登許呂豆良

とらへびと [和]刀良倍比刀 註 繫禁罪人也

とつぎをしへ

○奈部

一言

な 奈、南、難、儺、那、娜、乃、男 音

名、勿、無、莫、汝、菜、魚 訓

二言

なへ 苗 [万]奈倍 [字]同 未の初て生之

なゐ 地震 又 地動 [紀]那為

なは 縄 [紀]儺皤 [万][和]同

三言

なほ 直 豊後郡 直入[和]奈保 里又なほし次に在

なほ 猶 [万]奈保 [竟宴]哥同

なづ 撫 なでなつ同 するの約づ

なむち 汝 名持の意 貴辞之[古]大穴牟遅と大名持なも云[万]大汝の字を借

なづき 脳 [和]奈豆岐 註 頭中髄脳之

なへぐ 蹇 足病之[和]阿之奈閇又那閉久

なまづ 鯰 魚之[字]奈万豆 [和]同

なまづ 蕃 蕃類之[和]奈万豆波太

なづな 薺 菜類之[字]奈豆奈 [和]同 [字]又支波為

なぎ 澤瀉 水草之[字]奈ぎ 万為[和]同

歴易 なハて 畷 [和]奈八天 註 田間道

なほし 直衣 又 襴衫 衣服之[和]須曾豆介乃古路毛 又奈保之能古呂毛

字 奈豆支

延喜式齋宮忌詞云 死称奈保留 同齋院忌詞奈死称直と見たり 春云なをるといふハ俗言にての語釈にてつる〴〵しなでなつなづるとも云 [illegible] 奈都の仮字ふる [illegible]

神楽哥 奈川左波留

え　車具之和 奈加衣　轅

なづむ　古許斯那 豆牟 紀同　煩 万

なほり　豊後郡和 奈保里　直入

なぞへ　万奈 蘇倍　准

な

には　津國郷古那 介波 万和同　難波

ならひ　讃岐郷和 奈良比　成相

四言

なはせみ　虫之和奈波世美 註 蜩蟬不能鳴者也　蚱蟬

なゑくち　虫字奈米 久地和同　蚰蜒

なはさば　和奈波佐波 註大魚名也　鯆魚

なはしろ　万奈波 之呂　苗代

な

なりはひ　万奈里波 比和同　業

なほらひ　続紀猶比良 三代実録直相　直會

なまじひ

万奈牟強 志部よ在　強 慭

なずらひ なずらふ なずらへ　字奈須 良不　准

なづさひ なづさふ なづさへ

なづむよ同 万奈美能宇倍由奈豆佐 比伎介豆字蹈と布弥奈豆佐布

なほざり　直進之直 三言小在　等閑

なぐはし

万名 以部いすぐれし のくハしも同じ

契云なうしおりふとハ なしなうしわふと いへることも古くなし

五言

なまゑのき　木之和奈 末衣乃支　荊

なめしおふ　名小負之 しハ助

ないがしろ　無之 代之　蔑

〇爾部

一言

に　爾。你。迩。二。仁。而。耳。珥。貳。尼。柔。人。音

煑。荷。似。丹。

于。於。而。負。訓

二言

鳰

にじ　万上野哥 自和介之　弩工 虹

にほ にほどり にへどり　水鳥 古迩本 杼理 紀珥倍迩利 万同之 古美 字和介保　鸊鷉

には　古迩波 紀 万和同　庭 場

には　万海上の静なると介波 心之云平なると庭に譬

にへ　紀珥倍 万和同　苞

万十八十七丁 介奈比

典云にほ氏の壬生も鳥をにほ古へにぶとく云今みぶとぞいひしとぞ云へ誤りにふとにぶとは云しおのつからの轉なれば誤ともいひがたし

苴 又贄

にひ 古途波紀 万和同 新

にふ 大和越前郡和介布 丹生

にふ 安藝遠江安房郷和介布 壬

生

にゑ 熟ゑる なり 煑

三言

にきみ 瘡類之和途波美 今にきびといふも同 痤

にかは 和介加波 註 煮牛皮作之 膠

には

にひそ 草之和途波曽又仁比曽 甘遂

にはび 庭火之和途波比 燎

にほひ にほふ にほへる

万介保比又介保布又介保散理
○餘光之轉して声をも香をもと云

にはか 万介波可 字性同 俄

にひたさ 上野郡万

介比多和介布太又陸奥郡和介比太 新田

になひ になふ になへる 荷になひ になふは辞 荷擔

四言

にほどり 三言 ふ出 鸊鷉

にはづき 虫之和仁波豆と 地膽

につ

つじ 木之和仁豆と又乎加豆と之 茵芋

にはくさ 草之和途波久佐 地膚

にひなへ

みとりは竹取物語にも同じ東異記に呻吟をによぶとよめり竹取物語にもによびふせりとあるは苦しげなるをいふなり

西介比那閇 新嘗

厚介と介支波と志 賑

にれもひ 飲物之和途於毛比又豆久利美豆 漿

にきはひ

越中郡和途布加波 新川

にひばり にひまり 常陸郡古途比婆理 和同紀同 新治

にふのは

にひくは 万尓比具波 新桑

によぶ 灵介土与夫 呻

にひくさ 万仁比久佐 新草

にぎたづ 伊豫地名紀 你枳陀豆万 熟田津

五言

にはつどり 鳥之古介波都登理紀同 雞

にひまぐさ 草和仁比万久佐又祢阿沽美 蕳

茹

にはざくら 木之和途波佐久良又波と加 朱櫻

にはたづみ 万介波多豆美 和同 註 雨水也 潦

六言

にはくなぶり 小鳥之和介波久奈布里 鶺鴒

春云誤にあらず通音にて

万十五 三十四 奴敝流 又万三 白縫とかきてしらぬひの枕辞に借用たり

○奴部

一言 ぬ 奴、怒、努、弩、農、濃 農濃二字古ハ奴の假字也和名抄の頃より乃の假字に用るハ誤

野、沼、寐、宿 訓

二言 ぬえ ぬえどり 鳥也 古 奴延 万 奴要子鳥 字 和 同 鵼 又鵺

ぬひ ぬひめ 字 奴布 和 同 縫

三言 ぬなは 水草也 古 奴那波 紀 字 同 蓴

四言 ぬかつく 頭もて地を突也 和 叩頭 虫など 奴加日支無之

額突 又叩頭

ぬえくさ 古 怒延久佐 偃草

ぬすまひ ぬすまふ 万 竊舞 又 将竊食

ぬすむをいふ このしたる語也

○祢部

典云拾遺物名に疵住にそへてよめり

賓云祢ひろしといふことゝ云る ことろ 祢ふる 字 祢夫利 祢夫利 撰 和 合歓木 祢夫里乃木

春云加礼の約也なり

一言 ね 禰、年、尼、泥、涅、佞、涅 音

根、嶺、峯、寐、寝、睡、宿、泣、哭

喧、鳴、啼 訓

三言 ねずみ 小獣也 和 祢須美 古本催馬楽哥 同 鼠

ねらひ ねらふ ねらへる 伺候也 万 祢良比

ひ ねがふ ねがへる 詔 願 懇 万 祢可比 願

ねぶる ねむる ねぶり ねむり 同 眠

五言

七言 ねぢけびと 拗けたる辞 ゆがみたる 佞人

ねずみもちの

き 木也 和 祢須美毛知乃支 梜

○乃部

万十四 能其比

園 兕 乃呂不

古ハ告事を申のりと云

一言

の

乃。迺。能 音

之。野。笑。箟 訓

三言

のづち 毒虫之(字) 乃豆知 蝮

八夜 知かし 暴風

のごひ のごふ のごへる (字)乃己不 (和)手巾と太乃古比 常にはぬぐふとぞ云 拭

のらえ 野往之(和) 乃良衣 蕪

のとき (和)乃和支 乃外世又

のろひ のろふ のろへる

のハ祈の略 ろひハ辞 兕咀

のらへ (万)告問 のまと 延ぐる辞

四言

のたまひ のたまふ のたまふ のたまへる 告給之(字)使下 のり給ふと乃太万不 宣

のいすみ 癢類之(和)乃以須美 註 脚指間生肉如刺

由著鞭小相揩而所生也 肉刺

五言

のむどふえ (和)乃無土布衣 吭

〇波部

昌代弘賢云常磐と常盤と書る古書に例多し集古録に呼疑是盤字箇少假借爾毛卦盤栢擇文作磐栢とも見ゆ盤磐通用の例こゝに古記康治大嘗會記等亦作常盤

万二 ハ右呼 波由流 万六 十七丁 小篠生

万五 播倍多西期等久云々 延の義也

一言

は

波。破。皺。半。判。絆。伴。巳。播。幡。嶓。薄。八。方。芳。泊。蘋。盤。音

者。羽。葉。歯。早。速 訓

磐 清音

伐。婆。濁音 婆と和の如く唱る八半潟又麻摩寛ゑちら来の假字なきがごとし 波の濁音にも用

二言

はゝ (記)波ゝ (万)(和)同 母

はへ 虫之(和)五月蝿と左寛 陪(字)蠓と波へ(和)波問 蠅

はえ 魚之(字)波 延(和)同

鮠 (字)鮎

はえ 草木の生之(万)波要 生

はえ 茅始生之(紀)波曳 萌

はひ (字)(和)波比 灰

ちはゆ (字)波 恥

蚑行

はひ はふ 草木のはふを (古)(万)波布 延

はひ はふ はへる 伏て行之(万)伊波比 伊ハ発語又波布 匍匐

はひ はふ はへる 虫の行之(紀)波賦武 志(新)同 (和)波布

三言

はだへ (和)波太倍 膚

はがひ (万)鴨の羽我比 羽交

はりを 魚之(和)波利乎又与呂豆 針

稲の外の献物をもハつほと云ハ誤之

はゝき草ハ箒に用る故の名也

万十四 波自久
灵祓 波浪遍
原本祓をはらひとせるハ非也はらへハ
はらふはらふると活用する故ハ拂ハ
はらはんはらひはらふと活用して
祓とはらへのミなり

魚

はつほ 新稲と神或朝庭に奉る之 初穂

ハねず 万 波称受 又 翼酢 唐棣花

はゝか 和 波ゝ加 又 迩波佐久良 朱櫻

はゝそ 字 波ゝ曽 和同 柞 字 楢

ハゝこ 草之 和 波ゝ古 鼠麹 母子草 文徳実録

はゝき 万 波ゝ伎 和同 箒

ハゝき 草之 字 波ゝ伎 荊蒴

はゝき 國之 和 波ゝ岐 伯耆

はにふ 古 波迩布 和同 埴生

はへぎ 屋具之 和 波閉岐 又 太流岐 榱

はじめ 詔 波自米 万 同 始 又 初

はじく 字 弶と弓波自久 和 擿と以之波之岐 彈

はらへ はらふ はらふる 紀 祓具と波羅閉都母能 万 波良倍 字解 奏と波良反祭 祓

はらひ はらふ 万 波良比 字 件と波良不 和 白拂と波閉波良比 拂

はぐひ 和 波久比 能登郡之 羽咋

はふり 上野郷之 和 波布利 祝人

はいら 讃岐郷之 和 波以良 羽床

はいた 讃岐郷之 和 波以多 林田

はいし 山城紀伊郷之 和 波以之 拜志

はゐる 和 波為留 南復酢之 齗

四言

はゝくそ 今云ほくろと 字 波ゝ久曽 和同 黒子 字 黶

はらわた 和 波良和太 腸

はにわり 和 波尒和利 一月其陰 十五日為男 十五日為女 半月

はらばひ はらばふ 万 腹婆布 字 同 匍匐

はなづら 牛馬と繫 字 波奈豆良 和同 牛縻

はへとり 新 波倍度里 注 蜘蛛 似蜘蛛 恒捕蠅為粮者也 蠅虎

はくり 草之 和 波久里 貝母

はまゆふ 草之 万 濱木綿 木綿 由部に在

はじかみ 草之 古 波じ加美 紀 和同 薑

はまばひ 木之 和 波末波非 蔓荊

はがゝれ 和 波和賀礼 歴歯

はいずみ 膠漆具 和 波伊須美 掃墨

はづかし 万 波豆可之 恥

はうぶり はふむり 葬之 古 意富岐美表斯麻介波夫良波 …… はふりと延ていふぶり 又 紀 部 波布理 …… 次の はふそのの八是より出

はふりその はふその 山城郷之 古 波布理曽能 和 波布曽能 祝園

はいばら 遠江郡 和

波和 波良 蓁原

五言

はゝきぼし 冊八ㇾ 支保之 彗星

はたおりめ 虫之冊 波多於里米 促織

はへはらひ 僧房具之冊 波閉波良飛 白拂

はつくろひ 冊 波都久呂比 許鳥理毛也 敝

はひまゆみ 木也冊 波比末由美 杜仲

はらのふえ 戦の具之冊 波良乃布延 大角

はせつかひ 古 波勢 豆加比 馳使

六言

七八言

はちすのはひ 冊 波知須乃波比 字 荷未乃白久支 蕋

はひもとほろふ はいもとほろ いはひもとほり いはひもとほり 古 波比母登富呂布 又 波比母登富理 冊 異波 比茂等倍離 西 伊波比毛等保理 いハ発語 匍纒

はうりめ

はかりもし 冊 波加利 乃於毛之 權衡

はゝかたのをはぢ 字 波々加太乃 於保知 冊 同 外祖

後撰秋下 ろをひぢ ぴども

父

はゝかたのはゝ はゝかたのおば 字 田方乃波々 冊 田方乃於波 外祖母 於婆ハ大母の略なるへし 於

の假字ハ父母の兄弟と平治乎婆と云ハ小父小母の義 故ニ乎の假字なりまぎらふことなかれ

○比部

一言

ひ 比。妣。非。悲。斐。飛。必。秘。彼。被。肥。卑。婢。賓。嬪。辟。避。譬。

臂。費 清音

毗 比 清濁二音

備。鼻。眉。媚。寐。弭 濁音

日。火。氷。乾。檜。干 部

二言

ひぢ 字和 比知 臂 又肱 肘

比治 比豆知とも云 ひぢ 比知ともいふ 泥をつけるを又 濕

ひぢ 土之冊 泥土と千尼 比尼 毘尼 冊 遠江郷土形を比知加多 沙土と須比知

ひを 字 比乎 小魚之 氷魚 字 鮱

ひぢひつ 万 蒸漬と ぬるとも云

ひえ 字和 比衣 稗

春云日知と物を嫌ふる轉して聖人と時しの義に用ゐて聖の字に充たるにかくぶりきてむそでに久し大伴旅人の哥に此用の語あるもあれ

春云比ゝ奈の假字まさ釈日本紀に諸ありひふくろのひとゝいふとええとゝつ竹物語に在る假字於要にまさりり

字 聳 比豆 秀く

圓 秀 備和豆尓多流

字書 草似稲而實細

ひえ 山名之 比叡 又日吉○吉の古訓延之 後世ひよしといふは誤 古日枝

三言

ひじり 舒明天皇と日知也 万八竟宴哥比志理 聖

ひたひ 和比太比 字 慣と比太比乃加ゝ保利 額

ひた

ひ 衣飾具之 和比太飛 註 蔽髪 亦前爲飾也 蔽髪

ひゝな るの子のひくゝなるに名つくるなるべし 雛

ひゝる

虫之 和比ゝ流 蛾 又 蝱 和比太流 注 老蚕也 註 蚕作飛蟲也

ひづめ 和比豆米 獣 畜足也 蹄

ひつじ 和比 獣

豆 之 羊

ひつぢ 和比豆知 又 於呂加 於比 註 自生稲也 穭

ひいづ 穂出の轉之 和 秀と 保のみしまさり 秀

ひこえ 字 木細枝 これ古延 杪

ひしほ 和比之保 字 醢 と肉の之保 醤

ひはだ 檜皮之 古 はだ さきと皮爲

酢寸也 書り

ひたと 紀 毘 陀烏 頓仆

ひとへ 一重之單 同 和比刀閉岐奴 註 衣無裏 上單

ひき

ゐ 續紀 比支爲天由久 字 攜 を比支爲天由久 率

ひろひ ひろふ ひろへる ひろはん 續後紀 拾布 古本作備 馬槳哥 比呂波年

ひのえ 兄

比宇賀ハ音便ヘ

春云八塩折ハやしほりと此の語釈いふくなまいり

丙

ひごゑ 和比古恵 失聲

ひむか 國之 紀 辟武伽 和比宇賀 也 ある八平声 日向

四言

ひえどり 和比衣土里 常にひよどりとも 鵯

ひをむし 和比乎無之 註 朝生暮死虫也 蜏

ひしきも 伊勢物語哥 引敷物といふ詞 和比須支毛 あるいり 鹿尾菜

ひこばえ 字 蘗と比古波 由 和比古波衣

註 斬而復生之 蘖

ひゝらぎ 木之 古 比ゝ羅木之八聲 柊 續紀 比ゝ良木 字 和 同 杠谷樹 又 巴戟天 字 和 同訓 部本に巴戟天あって夜末 和 草

比ゝ良木也訓 又黄芩も同訓

ひきおび 和比岐於比 註 小帯也 衿帯

ひぢりこ こひぢ 和比 知利

古又古比治 註 土和水也 泥

ひぢまき 和比知万岐 註 在臂上者 いもひ八 りき 万 久志呂 和 備中郷 釧代と久志呂 釧

ひと

へに 一重 不同 偏

ひとしほ 古 八塩折酒 又八塩折之紐 万 呉藍之八塩乃衣 此八塩折八 也 志保伊利の伊と知ふ通して云之今一入と云 客あへて

五言 至八言

ひつじぐさ 草之 和比 豆之久佐 白鮮

ひとだまひ 和比刀太 万比 又 曽

ひをけかつら八古事記日本紀ニハ蘿とこて千鱗と守り又山かづら和名抄ニ蘿比加介又松蘿万豆乃古介又佐流乎加世ほとその引ぬ抛多し後世地をハ吾字と誤

開久流万 註後車之 副車

ひをひをぐり 和比乃比米久利 太白神

ひざのり

はら 和比佐乃加波 良註膝骨也 膝腡

ひるむやまひ 和比留無夜末比 註不能行也 痿痺

ひ

しこいわし 小魚之 武比志古鰯 和比師古以和之 鯷魚

ひのけのつら 祭具之和比加介加都良

ひきのひたひぐさ 草之和比支乃比太比久佐 又美良乃祢久佐 細辛

ひこ

蘿髪蔓

づらひ 引と延たるさと 古比古豆良比 万引豆良比

(ふ)不部

一言

ふ 不否布副扶負敷浮甫輔賦府俯符赴 清音

夫

父矛歩霧鶩部 濁音

蜂音 二字一言 万夫

生歴經 訓

古今集ふぢ衣ほの八言ふらよくちのみ古へ喪事ニハすべて麻布を用

二言

ふぢ 古布遅 万和布治 藤

ふじ 駿河郡ノ山名 和布浮志 富士

ふえ 紀府曳 和同 笛

三言

ふぢぎぬ 草之和不知奈 不知奈 蒲公草

ふくみ 万布勢 蘊

敷布里 字菊を保々 本註花初将開 含

ふるひふるふ 竹器 字豆支不 万和布流比 篩

ふてし 能登郡之 和不布志

鳳至

ふたゐ 長門郷之 和布多為 二處

ふけひ 厨の名又名 吹飯

四言

ふくろふ 鳥之 字和不久呂不 梟 兎鴟

ふしづけ 捕魚物 字不志豆介 乃木 和布之都介 罧

ふきがは 鍛冶具之 和布岐加波 常云ふいご 鞴

ふらはへ 万布良閉 觸

五言

ふなよそひ 万布奈与曽比 和司 艤

ふぢごろも 長服之 和不知古路毛

綟

ふぢばかま 草之和布知波加万 蘭

ふみふじる 字不弥介志留 蹢

ふ

りつゝみ 和 不利都々美 鼓鼓 略 鉦と布利豆々美

○閇部

一言

へ 反。返。閉。敝。幣。蔽。弊。篇。遍。覇。陛。珮。背。沛。杯。鞞。鞞。平。

邊 清音 便。辨。別。倍。陪 濁音の(ゑ)の如く唱ふ八半濁に

經。歷。重。隔。方。碰。戸。訓

三言

四言

へつひ 古本作馬裝 刀与反都比 竃

へつらひ へつらふ へつらへる 字 反豆良不 誌不實言也

諂 又 諛 識

釋紀引私記 保々都岐

字 吠 犬乃保由留 原本ふえるとあるを保言と今改む

○保部

一言

保 保。褒。本。寶。朋。費。報。富。譜。裒。抱。方 清音 菩 古 清音

凡。煩。

之 濁音

穗。帆。百 訓

二言

ほと 和 保々許面 要月下也 頰

ほゆ ほえ ほゆる 和 保由 獸聲之 字 嘷 又 吼 吠

三言

ほづゑ 古 本都延 紀 万 同 末枝

ほしひ 乾飯之 字 加礼伊比 又 保志比 和 保之伊比 糒 又 粮

ほどあ 乾肉之 和 保之々 脯

ほのあ 火秀又火の穗之 焰

ほいた 備中郷 和 保伊多 穗北

四言

ほゝづき 草之 和 保々豆岐 酸漿

ほやづら 蔓草之 和 保土豆良 百部

ほ

しいを 乾魚之 和 保之以乎 鱐

ほしいひ ほしひの條ニ在

ほそずげ 和 冠乃乎 又 保々須介 又 於以

加計 綾又老繁

五言 十一言

ほゝがしは 厚朴 木之 万保宝我之婆 字和同

ほゝのひゞき 和保々加比

比刀又加多爲 灵同 乞匃 乞兒

ほうしまらびとのつかさ 官名之 和保宇之万良比刀乃豆加佐 玄蕃寮

○末部

一言

ま 末、万、萬同 満、馬、麻、麼、摩、磨、縻、魔、莽、音

眞、間、目、際、

回又廻 訓 喚犬 二字訓

六馬鏡 万士早巴

二言

まい 黒牛之 和麻伊 鳥牛

まひ 古麻肥 万同 幣

まひ まへる 古麻比 和 続後紀同 舞

万 麻豆 又 十九 同

まへ 古麻弊 紀同 前

まづ 続紀先豆 先豆 三代実録同

三言

まよね 貝之 和万与和 石炎螺

まとゐ 古本神楽哥 万刀爲 圓居

ま

目弱王の まゐりつの 事ハ寺和の条に在

ゐる まゐる まゐこん まゐらせ まゐでし 古麻韋久礼 紀同 万麻爲多利 古本神楽哥 万爲利 参

まうで まうづ まうつる 参出之 古本催馬楽

仏足石哥 麻宇佐牟 八入の集ハ

万宇 詣 万同又麻宇勢 弐同 仏足石哥 麻宇佐牟 曰

天

万十八 新古 交倍 麻自倍 原本ニまじへるとあり 今改之

まじる 万末自里 古今物名 雨ちる やまと ゆふ あり 交

まうけ 万麻 宇気 儲設

まがひ 不正之訓 麻我比 躓

まとひ 云之 古麻 妻須 紀同

まうふ 竟宴哥 万賀布 紛

まどひ まどはす 続紀 迷 迷偏 迷

まどへる 万 問 乱 和

まとふ

続後紀 迷比 新万同

万 波奈 和 利麻我比

まがひ 万与布 註

増欲 壊之 紕

まうだ 上總郡 和 末宇太 望陀

まつはる まつはれ 比不 倍同 纒

仏足石哥 麻良比止 まらうどと云ハ音便なり

春云二十二丁井眼居の義にて眼皮を云眼気ことを云ハうへりて理なし和名抄の説をよしとすべし猶像字於要まいへり

小右記 万志奈比

紀 二八まつろふとあれども まつろふのるよあり 則誓あり

ひまがふ まがへる
古 麻刀比 続紀 麻度比 和 失意を古に路万土比
惑

まづし
古 紀 貧窮を麻治知 むつ治ハ豆志の約
貧

四言

ますらを
万 麻周羅遠 和 仏足石哥 同
丈夫

まゝはゝ
和 継父と 万ゝ知ゝ
継母

まらうど
稀人之 和 玄蕃寮と保字 之万良比刀乃豆加佐
客

まなこゐ
眼気之 和 眼皮と万奈古 為ゆゑある八たゞくも

まなじり
字 万奈志利 和 同 註眼尾之
眦

まじろく
字 万志呂久又目太々 太久 註目數動貌
瞚

まゆ

ずみ
和 万由須美 註畫眉墨也
黛

まわたし
和 末和多之 注壁中横帯也
壁帯

まないた
厨具之 和 末奈伊太
俎

まじこり
睍 麻自許利
青

まじなひ まじなふ まじなへる
説 蠱物の意 上のまじこりの轉し
禁厭

まひなひ
古 万 幣を麻比 似て云なひハ辞
賂

まつろひ まつろふ まつろへる
古 不順人を麻都漏波奴人等 紀 麻都羅 荷 万 麻都呂倍
随順

まじはる まじはふ まじへる
三言まじるに出
交

まかなひ

まかなふ まかなへる
字 万加奈不 註宛也當也
擬 又賄

まもらひ まもる まもらり
古 麻毛良比 紀 同 万 麻毛流 古本神楽哥 万保里
守 又護

まぐはし
万 麻具波思
真細

まなかひ
万 麻奈迦比
眼

五言 至十言

まとまうし
和 末刀万宇之 註執旅司射中當挙之
司旌

まさきづら
真栄葛之 紀 磨左棄逗羅

ますらたけを
万 麻須良多鶏乎
勇士

まつはしのう へのきぬ
衣名之 和 万都波之乃宇倍乃岐奴
縫掖

〇美部

一言

み
美。彌。瀰。未。味。尾。微。弭。寐。民 音
見。視。看。覩。監。相。

神瑞とみづほとをおぼつかなし

春雨昌平異記に三左平又弥次平拾遺集雑下菅原道雅女の哥に併にみせたり

御。箕。三。身。水。海。訓

二言

みつ 古美豆 紀万同 水

みづ 紀弥圖 瑞

みづ 美都紀万祝同 ワかきあり古 稚

みを 水の源さ

阿に 万美乎和 水豚船を 美乎比岐能布祢 水豚

みわ 大和に在 三輪

みわ 酒をかみくる器をえ醞醸の略之酒のうつわのみ思ハ誤紀 添和万同○神酒をまをさるハ古とワのみ料なるに奉りく

誦あ 了

みえ 古美延 紀万同 所見

みほ 地名万見穂又 美保

三言

みづは 水神紀美 都波和同 罔象 又魍魎

みづち 上に同和 美豆知 魍魎

みづち

龍属之和 美豆知 蛟

みづら 古美豆羅 同和註 万和 屈髪也 鬟

みふず 虫之字弥と受和 古本倭馬乎哥同 蚯蚓

字跡

みつを 馬具之和 美豆乎 鐙靻

みぎハ 水際之際ハ 岐部に在 和美岐波 左支 汀

みをさ

古書にハつとぬ訓之後拾遺匡衡御哥に表なる竿にはせたるにあぐくるを又常陸に真青あるを万人魂乃佐青有公之... 竿。佐青。假字同ト 操

みそぢ

堀河百首除夜の哥 みつとちしはそむかたみちるふるくとしくとほのつもるそかり

みづふきのみづハ瑞の字を用ゐるハことにまよひし直に推の意あみ

伊足石哥弥蘇知阿未利の知ハ豆の誤なる 三十つ餘之續後紀尾張連濱主が哥に毛毛知万利八百つ余之一つより九つ迄につけて云ハ百迄にちがいて云共に助辞之後にみそじよそとありけ書ハ誤なるべし

三十

みのは 國之和 美加波 参河

みのをさ 蔵府類和 美乃和太 三焦

みく

四言

みづから 續紀身 都可良 自

みふづく 鳥之和都久 又美と都久 木兎

みづのき 和美豆 加祢 水

志ひ 字耳志比 和同 聾

みづうみ 和美都宇 美大池之 湖

みづのを

支誌鬼雁足撹開有 幕相連骨也 蹼

銀

みづがき 和美豆 加岐 瑞籬

みじかし 万美自 可伎 短

みづ

のえ 水の兄之 壬

五言

みづふふき 草之字水 不ふ支 芡

みをつくし 万水乎都久志 水脈縷之なる助 澪

宣長云字書ニ牟ハ牛鳴ノ声

標　みづばかり　和美豆波加利（常云みづなハ）　準縄

みづぶるひ　僧坊具之　和美豆布流比

漉水嚢　みづくし　古美都美都斯　紀同　澪（くすぐらなるくし）

みちのおく　國万美知乃久　和美知乃於久　陸奥

みやづかへ　万官都加倍　宮仕

七言　みだらをのうま　和美太良乎乃宇万　註青白雑毛馬也　驄馬

みなくのまぐ

はひ（わか留）　古美斗能麻具波比　遘合　紀眞字

○武部

一言　む　武、牟、無、（无同）鵡、務、霧、夢、謀　音

六　訓

牛鳴　二字一言

須云郁子をむべといふと本草和名にてあるべしされバ宜といひかけしもむへとはあしくなどいふ

音云字ノ訓を牟といふてと取扱一通音あれバ涙と云もの又ハあしハ毎仁紀ニ山獣名牟ニ那としあしいんで傍訓との事是也といふべき

二言　むべ　瓜類和牟閉　郁子

むじな　獣之字和牟志奈○推古紀傍訓ニ字自奈有古字ニ云語後世武ニ

三言　むかひ　むかふ　むかへる　古牟迦比、牟加布、牟迦幣流　万同　向

むかへ　むかふ　古牟加閉　万同

格　訓多し紀　訓是々

迎

むくい　むくゆ　字牟久伊○今むくひむくふなど云ハ誤　報

むらじ　姓又人名又地名　万武良自、牟良自　連

四言

五言　むかひめ　正妻之字牟加比米　又紀ニトウ刀豆米　嫡

むかしび　昊牟加之比　喜

むぎおすき　麥蘗木之和牟岐於須紀　秤麵杖

○免部

一言　め　免、米、賣、馬、毎、梅、昧、迷、謎、面、咩、綿、瑇　音

女、眼、目

見。妻。訓

海藻 二字一言

二言

めひ 兄弟の女子 〔字〕〔和〕米比 姪 又娣

三言

めしひ 〔字〕目志比 〔和〕同 盲 又瞽

めづる 〔紀〕〔梅〕豆留 感 又愛

四言

めあハす 〔和〕米阿波須 妻

めのわらハ めのと 〔和〕米乃於刀又米ノ乃刀又知於毛 乳

母

めはじき 草之〔和〕米波之支 茺蔚

めかつら 木之〔和〕米加豆良 桂

めづ

らし 〔紀〕梅豆邏志 〔続紀〕〔紀〕〔万〕同 希見

此語上の希見なる事と同じく感愛之〔紀〕〔万〕希見なとあるハ其感愛よりめづらしくもあれはめつらしといへる故に今ても別る事なるハ協ハさる也

〇毛部

一言

も 毛。毋。門。問。聞。悶。文。目。物。勿。茂。忘。蒙。謀。望。暮。墓。慕。

摸。謨。木。恭。年。儛 音

裳。藻。裙。方。面。喪 訓

牛鳴 二字一言 〔万〕もも

与夫毛の二字モトムニ通用無亦同見于日本紀竟宴哥

二言

もず 小鳥之〔字〕毛受〔和〕同 鵙 〔字〕鵙

もひ 尾扇之〔紀〕拖摩暮比〔和〕末里又毛比 盌

みもひ又おもひともいふ〔和〕類従於毛比とあるおもひも同

もひ 〔古本〕催馬楽哥 美毛比〔和〕主水

同と毛比乃里乃豆加佐是も上のもひにて皆水を盛器をもていふ

竟宴哥 毛由

もち 鏁之〔和〕毛遅 鋺

もえもや もえもい 草木芽生之〔続紀〕毛延〔万〕同又毛伊 萌

もえもゆ 火気之〔古〕毛由流〔和〕燼を毛延久比 燃

三言

竟宴哥 裳江

もみぢ 〔万〕毛美〔知〕〔和〕同 黄葉 又赤葉

もづく 海菜之〔和〕毛豆久 水雲

もち

ひ 〔字〕〔和〕毛知比 餅 ひハ飯の略なくもちゐともいふハ誤

延喜式卅一はもみぢ暑は毛都久とあるもみぢハ春云もちひハ後撰集に諸名も見ゆ…のあるに来る菓子も

ひ 〔和〕尾扇之〔字〕毛太比 氅 又氈毾

もちゐ もちゐ ひ候字をもとべしといふ も公候字あらくも誤なり 用

もゐ

もとゐ 本居之 基

もらひ もらふ もらえる 〔字〕〔和〕糊也寄食毛良比波死 賄 丐

もち

よりてあるべしみの依字とせん八拔ふきこ記之
[字]社稷 須女良於保毛止井

与云毛牟乃不八もゝのふと訓べし新古二山部公若牟不死手ふとあり

もえぎ 色こ十云六 二言ニ出 萌黄 萠 葱

四言

もとゆひ [和]毛刀由比 以組束髪也 註 髻

もえぐひ [和]毛延久比 註火餘木也 燼

も

もとほり 鷹具之[和] 毛度保利 旋子

もとほし もとほへ もとほり [古]毋登本斯 [紀]茂書廼之 [續紀]廻 [万][字]同 廻 [字]趲

もよほす 春虫の蠢かこよひ出るようらふべし 催

もものふ 陸奥郡[和] 毛牟乃不 桃生

も

もとろゐ 備前郷[和] 毛刀呂爲 物理

五言

[字]毛奴介加波 蛻

八言

ものぐるひ 病名之[和]毛乃久流比 又太布流 癲狂

もぬけがは

もゝづたふ 冠辭之[古]毛々豆多布 [紀]同 百傳

もひとりの

つかさ 官名之[和]毛比刀里乃豆加佐 主水司

春云男女と通して交しめかこ云うり流こ古くあたこ八語の時しるふれと今の俗のことによへり空穂物語茂るふ君ろうれとふ大にまそ承ぬ卖もめふそえあるまのう家もめるハきうん女えんとおほしるく

男ふやむと女ふやむ以ふ云俗誤る故ふ志るり

○也部

一言

や 也。夜。耶。揶。鄕。瑘。揚。野。躾。移 音 哉。室。屋。矢。八 訓

二言

やへ [古]夜幣 [紀][万]同 八重 又弥重の略

やほ 本 [古]夜 八百 又弥百の略

三言

やもを 無妻之[和] 夜無乎 鰥夫

やもめ 無夫之[和] 夜無米 寡婦

やまひ

[和]夜万比 病

やいば 焼刃之義と いふ通八寸 刄

やはず [和]夜波須 註 箭受弦処之 筈

や

[字]也志利 註箭莖之 鏃

やらひ やらふ やらる [古]神夜良比尓夜良比賜 [紀]逐之 訓夜羅賦 今本夜を波ふ誤 逐 又儺

や

をら 或ふ和字當るハ意ハ似て假字遠へり 和ハ也波 弱ハ与和こ 耶ハ与乎 々倭ふ通 弱

やよひ 草木弥生の略 三月

や

又附のめしやもめおてつきふく是ゆ身ハ又おそのやもめのましかれ下よりやもめ男ハすゝもしもち

春雨やをろくハやはらとは同し心ハ不をはゆ久ハあらんやとなと云とやうらもめのそくしさて和字の義ハやし古本今昔物語ハ和の字を出狭衣ハ戸のやをはらのおとしてといふハ一本やはらとあ

ぎふ 大和郷名 和 也支布 楊生

四言

やしはご 和 夜之波古 曾孫の子也 玄孫

やまゑみ 草之 字 恵弥 又安方奈 和 於保恵美 又夜末恵美 黄精

同物之

やなぐひ 盛矢器之 字也 奈久比 和 同 箙 靫 字

やしなひ やしなふ やしなる 紀 揶苐備破務 字 也志奈不 養

やうく 本耶ニ之真耶と延て耶字也字 少く云 古本神楽哥 漸

と合する 睽

やまたへ 和泉郷 和 也末多倍 山直

やがはえ 木の繁とえ 古 夜賀 波延 紀 耶餓波曳

やいつこ 紀 野伊徒姑 姑

やまたづ 古 夜麻多豆 註 是今造木者也 和 鍇を多都岐 註 広又含也云云

やいくし 灸具 以 和 夜以久之 弗錬

やはらぐ やはらぐ 万 夜波 之 祇 同 和

やいばた 焼田之 和 也以八太 ○今の畑の字ハ火田二

やないづ 津國郷 和 也奈以豆 楊津

や

やなぎをやないと云ハ音便也

古今集の詞にハなぬかの日やうかの日ありとあるハ語を延たるむろぶるひゆてつくらと日いへりのこ日ゑあるや…やうかハ誤く

五言

やはらぐさ 草之 和 夜波良久佐 黄耆

やなぎばこ 調度之 津國郷 楊津と也奈以豆の岐と云如く也奈岐の岐を以ハ通ハす 楊筥

八許の日と也を延て也字ハ云 八日

やまのかひ 山間之 和 山乃加比 峡

厨辞之 古 夜麻尓余志

六言

やまのかけぢ 和 夜末乃加介知 註 山路間道也 磯道

草之 和 夜末比々良支 巴戦天

やまぶき 草之 和 也末不支 欸冬

やうのひ

やほよし

やまびこらぎ

やのへのこけ 屋上苔之 和 夜乃倍乃古介 屋遊

やそ

やもの 万 夜蘇登毛乃乎 八十伴緒

○伊部 既出阿行伊部

万十五 由久欲 具数

○由部

一言

ゆ　由、遊、游、吏、便、愈、喩、踰、瑜　音

湯、従、自　訓

二言

ゆゑ　[紀]吏　衛　湯坐

ゆゑ　[古]由恵　[紀][万]同　故

ゆふ　[万]木綿と訓　[豊]後風土記　柚富　吉本神楽哥　由不　ゆふハ七ケヽ野

ゆふ　暮　[古]由布佐　礼婆　[万]由布　夕

蠶ノ語のもとハ眉生なるを畧轉して由不といへり後ニ穀の木の皮もて造るをも由不といへる八眉生の糸綿ニ似たれバなるべし

ゆひ　ゆふ　ゆへる　[万]由比　又由布　結

三言

ゆふべ　[万]由布敝　夕

ゆくへ　[万]往方　ゆくへを、古くハ

ゆはず　ゆみハず　弓末　[万]弓波受　[和]由美波数　弭

ゆづる　[拾]足石哥　由豆利　[竟]宴哥　由都留　譲

ゆふき　下総郡　[和]由不岐　結城

ゆげひ　備前郡　[和]由介比　靫負

万二　弓弦葉

四言

ゆふつゝ　星之　[和]由不豆豆　暮星西　太白星　長庚

ゆふさり　暮之　[堂]由不佐利

晡

ゆふがほ　夏草之　夕ハ二言　顔ハ加都ニ出　夕顔

ゆづるは　木之　[万]由豆流波　交譲

木

ゆのあわ　[和]由乃阿和　俗云由王　硫黄

ゆみいる　[和]由美以流　以前　射

ゆみづる　[和]由美都流　弦

ゆみづか　[和]由美都加　弓之中央也　弣

ゆざはり

[和]由佐波利　注以絲縄懸空中以為鞦也　鞦韆

ゆきかひ　ゆきかふ　ゆきかへ　[万]往反と訓　[新]万往　買。買ハ借字加比也　往反

ゆ

ゆまはり　[宛]由麻波利　齋

ゆふのは　在大和　[万]遊副河

五言

ゆふされば　夕ニ去れバ之　[古]由布佐礼婆　[万]同

ゆふづくよ　[万]由布豆久欲　夕月

夜

○延部　既出于阿行延部

○與部

一言

よ

與 与同、豫 預同、餘 余同、用、容、欲、譽、庸、遙 音

夜、宵、世、代、

好、吉、𦾔、四 訓

二言

よひ

紀 豫脊　万 同

初夜 すべての夜をもよひと云

よは

夜はに 波ハ赤に通、朝開益ヲ夕間のはに 夜半ト書ハ借字のみ

夜

よぢよづ

撿引 万 保都　枝與治等理

攀

三言

よはひ

賣宴哥 与波比

齢

よばひ

古 用 婆比

結婚

よぼろ

通江郷丁 和 与野を

よろふ

備 足 万 取与呂布

よろひ よろふ よろへる

語意上同 和 与路比

鎧 甲

よろ

万九十丁 取而引与治

良 洗濯 与波不

春云秘書抄に胴 和名与保呂脚中也とそ

このことよほろとといふもよろといふ詞

ありそれは丁ハ声より

脚といふことのあれバ

保乃 ホノ 丁

（よろ）

づ

紀 豫呂豆 万 仏足石哥 同

万 萬同

よそひ よそふ よそへる

紀 万 同　古 与曽比

儀

よどり

新ハ遠 郷に在

節

折 事ハ弐江次 寺寺に出

よわし

古 目弱王と 紀 眉輪王とあり輪ハ 倭之 字 膝を於毛与和志 而弱之

弱 柔

よそぢ

みそぢの

條に 云 四十

よみぢ

黄泉道 の略

よそへ よそふ よそへる

此と彼に比する 之 万 与曽倍

四言

よそほひ よそほふ よそほへる

仏足石哥 上のよそひに同 与曽保比

儀 粧同

よろぼひ よろぼふ よろぼへる

古本催馬楽哥 与呂保比

逶迤

よこぼり よこぼる

横タワル 也 古本風俗哥譜 斐 哥 与古保利太天流

五言

よばひぼし

和 与八比保之

流星

よろひぐさ

和 草之 与呂比久佐 又加佐毛知

白芷

よちをざし

和 乎佐之 又 与知乎 佐之 註 以竹貫魚 之

鮍

よみがへる

字 与弥 註 更生 之

還

蘇

よしゑやし

万 縦哉と訓 又 縦恵夜思 又 吉咲八師 ○恵や八助辞のみ

○良部

一言 ら

良、浪、羅、囉、邏、攞、樂 音

等 訓

○利部

一言 り

利、唎、梨、犂、里、理、裡、離、隣 音

○留部

一言 る

留、流、琉、瑠、類、累、盧、蘆、屢、樓 音

○礼部

一言 れ

礼（禮同）、例、戾、黎、連、聯、憐、列、烈 音

○呂部

一言 ろ

呂、侶、路、露、稜、魯、盧、廬、樓、漏 音

○和部

濱云字鏡に謡獨歌也又徒歌為謡和佐宇太とみゆまた思ふに歌ヨハあらぬれに和佐宇太といひふみてあらぬれ

わらはハ髪を結ずしてわらゝげてあるれの名也
わぎへハ我がいへのがいを約まるぎ也
わたつみハ海をすみつとほるへし

一言 わ

和、倭、王、涴、丸 音

輪、囘、廻、轉、吾、已 訓

三言 わらは 字 和良波 和 同 童

わぎへ 古 和岐弊 紀 同 吾家

わらひ わらふ 字 和良不 笑 咲 嗤

四言 わたづみ 紀 和多都美 和 同 海神 海神ハ後に海の総名にもなる

わらはべ 和 和良波倍 註 童男女也 侲子

わらふた わらふだとも唱 和 和良布太 註 草褥也 圓座

わづらひ わづらふ 万 和豆良比 煩

わなゝく 字 和奈々久 又 ワナゝク 怗

わきまへ わきまふ 倍不 通 辨

わざはひ 三代実録 和佐波比 禍

わざをぎ をぎハ字可笑を阿奈弖加之といひ紀 俳優をわざをぎと訓 古本神楽哥 加良弖支とあるを合せて仮字を意とす

わたらひ わたらふ 常に世渡りすることをワタラヒといふ 活 紀

わたらひ 伊勢郡 和 和多良比 度會

ワザヲギといへるこの仮字の例ハあらねど釈義の仮名考にまずれさぬ俗にわざくれするハ上にと云もほしと云へり

わくらば 万 和久良婆 邂逅

五言 わらはやみ えやみの 和 和良波夜美 又 衣夜美 註 二日一発之病也 瘧

わづかやま 地名 万 和豆香山

○爲部

一言 ゐ

爲、委、萎、位、威、韋、偉、渭、謂 音

井、居、座、坐、處、猪、藺 訓

豕、亥、藺、率 訓

蝙蝠 二字一言 和 爲 註 其貌似鼠而大者也

二言 ゐる 和 爲流 註 船著沙不行也 艐

ゐゐ 和 爲以 遠江郷名 渭伊

三言 ゐのこ 紀 爲能古 豕

ゐもり 字 爲毛利 註 蠑螈也 井中出 蛸

字鏡原本にも井中出とあるをもて虫の字を誤れるも字彙に蛸蠼井中虫也とあり

ゐぬる ゐぬ

續云古事記傳七十九ゟ伊佐留の假字とせり考合へし

本居氏も田居中の畧語とハみえまし きやうらいそれ左まと古本今昔物語ホ田居中の詞あきハその約語あらんといふむもそとわるあり

猪ハ猪の誤ゟ

續云和名抄ホよりて載られとこい誤ゝ異本和名抄ホ伊

斯 紀 万 同　率宿之 古 韋泥

ゐざり　居去之　膝行

ゐなか　万 居中 和 爲奈加 ○田居中の略　田舍

ゐせき　字 爲世久 和 爲世 支註以土遏水也　堰埭

ゐぐひ　古 韋具比 紀 字 同　堰㰏 字 杙

ゐ

ゐさり　農具之 和 爲佐利　耒底

ゐなべ　伊勢郡之 和 爲奈倍　貟辨

ゐのへ　河内郷之 和 爲乃倍　井

ゐ

於　又讃岐郷 和 同上　井上　又同國郷 和 同上　井門

ゐやび　續紀 爲夜備○是ハゐやまひホてらやまひホ同 爲字通　禮

四言

ゐさらひ　和 爲佐良比 註坐處也　臀

ゐのあし　和 爲乃阿之 註機之脚繒者之　織復

ゐてゆく　率往之ゐハ比 岐爲の畧之

五言

ゐのゆき　草之 和 爲乃刀々支　豬魁

ゐのくつち　ゐのくひ　草之 字 爲乃久豆和

和 爲乃久豆知 和知字相似たりいづきちまうらん 字 又爲乃伊比　牛膝

ゐちごまめ　豆之 和 爲知古末米　珂孚豆

知古万米とかうのをよし よす人一覆盆子に似るなうう名つけし てしさもめをあうし此 印本和名抄の誤字 多し心しそさるし さて此語ハさるとい 削て以部ホいち こまめとして出れし

員 雕 恵利又穿同

續云豕ハゐのこと犬子ハいぬのこホて ゑぬのことそかく一豕の 字ハ当られ

○宇部　既出于阿行宇部

○恵部

一言

ゑ　恵。衛。囘。隈。穢。會。繪。音　咲。餌。訓

二言

ゑぬ　獸之 和 恵 奴又以奴　犬

ゑぐ　菜類之烏芋の小者之 万 恵具

ゑみ　草之 字 恵弥又安万奈 和 於保恵美又夜末恵美

黄精

ゑみ　ゑむ　ゑめる　古 恵美 万 恵麻波之又恵麻比ハ麻比の約美　笑

ゑひ　ゑふ　ゑへる　酒ホゑふなり 古 恵比 万 字 同　酔

ゑる　刻之 仏足石哥恵利 字 剕と久 自利恵留 和 鏤と加布良恵利　雕又彫

ゑそ　能登郷之 和 恵曽　越蘇

三言

ゑとり　和 恵刀利 註 屠牛馬肉取鷹雞餌之義也 按生及屠牛馬肉販賣者也 云ゝ或説今の恵多ホふものハ此恵刀利の轉せるならんといへり　屠兒

ゑのこ　犬の子之 和 狗尾草 又と恵奴乃古久佐と有　豕

ゑくぼ　人笑時頰上見者 字 和 恵久保　靨

ゑぐく

春云内裡式新嘗祭の宣命ニ黒伎白伎御酒赤丹乃穂ニ食恵良伎恵良驗止とあるハ咲楽のまをゑらぎといへるにもかなひてゑらぎとしるをよしとなむ又貞観儀式踐祚大嘗祭儀ニ昝歡聲恵良 義旦とみゆ

字 出気息心呻吟之 恵奈久 嘌

詔 恵良伎 悦喛 字書 喛 者大笑也

ゑぐし 味之 和 恵久之 鹼

ゑにず 字 恵亦須 槐

ゑらぎ ゑらく ゑらく 笑之 万 恵良 亦 古 恵良 ゑらき 烏楽 又 咲楽

ゑくり 和 恵久利 阿波郷之 殖栗

ゑまひ 二言の ゑみ 同

四言

ゑみぐさ 草之 和 恵美久佐 又 安麻奈 女萎 葳蕤

ゑづら 良 恵都良 可亦 嘲

ゑらく 三言の ゑらぎに同じ

六言

ゑぬのこぐさ 草之 和 恵奴乃古久佐 狗尾草

○袁部

春云吺ハ呼の引声なるをハ二字とおもひてくはへたる字と本國と紀伊と云たぐひも二字一言の例字ならハ移すべくも挙ぐるハよろし 削へし

万四 伊乎曽呂登吾乎

一言

を 袁遠乎呼弘烏鳴塢怨越叫惋廻悪 音 男陽

夫士丁雄牡尾小少緒絃麻苧峯岑岡丘侵矣 訓

呼吺 二字一言 和泉郷 和 乎

二言

をぢ 父の兄弟之 字 乎地 和 同 伯父 叔父 仲父 李父 同

をぢ 紀 烏膩 万 同 老翁

をば 父の姉妹 字 乎婆 和 同 伯母 叔母

をひ 兄弟の子之 字 和 乎比 甥

をし 鳥之 紀 鴛 志 和 同 鴛鴦

をし 古 乎志 紀 万 同 愛 惜ハ 轉之

をし をす をせ 古 袁須 又 袁勢 紀 同 食

をそ 水獣之 和 乎曽 獺

をそ 偽之 万 於保乎曽村 里の乎曽ハ今云 宇曽之悪の意とするハ誤之 嘘

をぎ 草之 万 乎伎 字 和 同 荻

をか 土ノ高處之 古 袁加 紀 万 同 岡 又丘

をの 工具之 和 乎能 斧

をけ 麻笥之 万 遠家

をけ 汲水器之 和 乎計 桶

をさ 万 乎左 長

をさ 機具之 和 筬

宣長云初へかへるこ　とを乎知と云郭公のをちかへりて鳴と云も此類也

春云乎宇刀とみえをも用へしユマウトマラウトなとも云ことの類例多し乎不刀ハいとめつら首とオフトちと云なりなんとさもとこハ用へかるなれ

万九ハ乎能故

和同 乎左 筱

をりをる 古衣理 紀 万乎流 同 居

をりをる 利 万乎 折

をち 紀烏智 万同 遠

を

ち 和乎知 野菜也 草薹

をゝ 紀 應声也 点越也 唯々

をゑ 和乎恵 阿波郡 麻殖

を

こ をこがまし 古表許 紀乎古 同

をへ 三言をハアの処ニ云

をとり 利 夷乎 脚

をとち 万遠知米也母 終とも和名かへりと云

三言

をうと 宇乎不刀 和乎宇刀邪有 夫 又聟

をのこをのこ 古遠置古 紀万 同 和乎乃古 男

をぐな 紀烏具奈 童男

をみな 古袁美那 古本催馬楽 宇 同 遠無奈可嗚ハ音便 女

をみなご 少女之古

遠登賣 紀万同 乙女也 少女 又幼女 處女

をさめ 長女の意也 和乎佐米 專

をぐ

を 男鳥之和 乎土里 雄

をどり 和 少女養雉於長押入 能擔引野雉也 乎度利 媒鳥

をどりをどる 万乎杼里 宇同

踊 又躍

をろち 出也 古遠呂智 和同 又倍美又久知奈波 蛇

をさぎ 長耳小獸 万宇乎 佐藝 和宇佐支 鬼

濵云犯ハれ乎の假字也委くハ別考あ

春云蜻蛉日記ちもくのちるのそ山にくてひみつもいらまつドのをうりかるほしそをうしを閣まいひわびそり此假字を感する意あるをれの假字笑ふ意あるハをあると云説ハ誤也委くハ假字拾要みいへ濵云大人の説に従へし猶委しき餘論ハ乎ゟ別考ふ有り

をこじ 魚之 宇乎 己自 和同 鱶魚

をざし 和乎佐之又与知乎 佐之訓以竹貫魚也 䱇

をけら 宇乎 草之

を 介良 和同 朮

をばな 薄穂之 万乎波 奈古今物名 同 尾花 又男花

をがむ 推古紀烏呂餓弥豆 ずと云をまをし拆届也 拜

をのゝ 万 假を乎の假名ニ用 犯 又侵

をさむ 万乎佐牟 和 竟宴哥 同 治 又修

をしへ

をしふ 和鶺鴒と刀豆支乎之閒土里 竟宴哥 表底弊 續紀今本宣命ニ教江とあるハ後人の写誤也 教

をこし 宇阿奈 乎加之 可咲

をしみ をしむ をしけく 紀 鳴呼 嗜矩 万 怨之美 愛 惜ハ 轉也

をつゝ 万乎都々 うゝゝ 同 現

をはり

をへ 万乎波里又乎倍 乎閇年 仏足石哥 終

をはり 國之 和 乎波里 尾張

をさだ 駿河郡 和 乎佐多 他

田 信濃郡 和 乎宇奈 小内

をぐき 薦也 於部ニ説 あり見合すべし

をとめ 万 花 呼里

四言

をむなめ 正嫡ニあらぬを云 和 乎無奈女 妾

をさなし 長無之 長へ三言ニ出 稚

を

新云 砺幡乎
をりへハ時延なく時長くつゞく事と云とある本居氏の説よるべし
沼七世三乎知許知

をぢなき 仏足石哥 乎遅奈伎 懦弱
をぎむし 屈伸する虫也常ニ尺取虫と云 和乎伎無之 蚇蠖
をこの

をづら 木也 和乎加豆良 楓
をしかは 柔皮也 和乎之加波 韋
をさく 長也 万乎佐乎左毛

専
をたけび をたける 和烏多鶏盧 雄誥
をのゝく 懼也 字乎乃々久 和奈々久 怗

をとつひ 万乎登都日 前日
をとゝし 上の例 前年
をりは

へ 時合布らん
をぶすま 武蔵郡 和乎夫須万 男衾
をちこち をちハ遠也 二言ニ出 彼此

をつくは 万乎豆久波 をハ発語也 筑波

刀乎刀之 赤箭

五言
をみなへし 草也 万乎美奈敝之 古今物名 和同 娘部志
をかとゝき 草也 和乎加土々岐 苻蘺
をけくし 草也 和乎
をこつゞし 木也 和乎加豆々之

又仁豆々之 茵芋
をちかへり 鶯郭公なとのくりかへし鳴事ニ云二言のをちハ同意也

六言
をばしら 字 橋梁之左右之柱也 乎刀古柱 憧柄
をのこやもゑ

霊異 乎乃古夜母止 鰥
をのこじもの 万 雄自毛能 凡 男士物

七言
をさむるつかさ 官名也 和乎佐牟留都加佐 治部省

九言
をさめつくるつかさ 官名也 和乎佐米都久留都加佐 修理職

ことなるかんなる假字國郡の名のうちに又和字正濫のあやまれる事とハ假字拾要にくわしく書るまたいふ人合せて考へし
寛政七年四月　平春海

大人の考のくさぐさなるを楫おゐるをも又おほよそにしるしおきつ
享和二年四月望　濱臣

まのへ[illegible]
弘化三丙午春　山田常典

明和のはしめの秋八月にあつめ終ぬ
下つ総の国なる楫取魚彦
子孫の某恒をくにの法にのつとり
[illegible]

垂仁紀八十七年春二月云々大中姫辞曰吾手弱女人也何能登天神庫耶、神庫此云保玖羅、五十瓊敷命曰神庫雖高我能為神庫造梯豈煩登庫乎、故諺曰神之神庫随樹梯之此其縁也
雄略紀十二年曰命木工闘鶏御田始起楼閣於是御田登楼疾走四方有若飛行云々
同十三年曰木工猪名部真根以石為質揮斧削材終日削之不誤傷刃云々
推古紀十四年夏四月乙酉朔壬辰銅繍丈六仏像並造竟是日也丈六銅像坐於元興寺

[illegible]

金堂時佛像高金堂戸以不得納堂於是諸工人等議曰破堂戸而納之然鞍作鳥之秀工以不壊戸得入堂云々太子傳第三亦載此事

雄畧紀十三年秋九月木工猪名部真根云々爰有同伴巧者歎惜真根而作歌曰婀拖羅斯枳偉儺謎能陀倶弥柯枳志須弥儺皤

山田常典増梓

江戸書林 英文蔵梓

東京書林

浅草區北東仲町

淺倉屋久兵衛